

公益財団法人横浜市ふるさと歴史財団 令和３年度事業報告

(令和３年４月１日から令和４年３月３１日まで)

はじめに

令和３年度は、博物館の休館はなかったものの、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の発出期間が通算で約半年間にわたるなど新型コロナウイルス感染症対策に迫られる１年となりました。各館では、文化庁の補助事業である「文化施設の感染症防止対策事業」を活用するなど、感染症対策に万全を期すとともに、オンライン講座の開催、Twitter、YouTube など SNS による情報発信を強化し、博物館に直接来館できなくても、展示や資料に触れていただけるよう取組を進めました。

こうした取組は、令和３年度に策定した第６期協約にも反映し、これまでの来館者数等の評価指標に加え、「オンラインコンテンツの閲覧回数」や「授業コンテンツの作成協力本数」「デジタルアーカイブの整備」など新たな取組にかかる評価指標として追加しました。

また、令和３年５月には、開港資料館を拠点として山下公園、元町、中華街エリアを文化観光拠点とする「横浜開港資料館における文化観光拠点計画」が文化庁の認定を受けました。財団では、計画に基づく事業を着実に推進するため、７月に担当セクションとして「拠点計画推進課」を立上げ、職員が横断的に取り組める体制を整えました。資料のデジタル化、資料解説動画の配信、web ページの多言語化、計画エリアをめぐるガイドツアーの検討、開港資料館旧館の整備などを進めました。

このほか、令和３年度は、横浜都市発展記念館・横浜ユーラシア文化館の空調機故障による企画展の延期など施設・設備の老朽化が顕在化しました。各館では発生時の状況把握、市役所所管課への早急な報告・相談を行うとともに、小破修繕など適切な対応を行いました。

財源確保の取組では、「文化観光拠点計画」の推進や、横浜北部の地域文化遺産をつなぐ「よこはま縁むすび講中」事業の推進に文化庁の補助事業を活用したことをはじめ、「横浜の大名」展や「横浜ユーラシア・スタチュー・ミュージアム」ではクラウドファンディングを実施するなど外部資金の確保に取り組み、正味財産期末残高２億５千万円を確保しました。今後も経営環境を整え、財務体質の改善を図ることにより、財団の使命を達成していきます。

I 財団本部事業

1 財団本部事業（定款第4条第1項第3号）

昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染拡大防止に横浜市と連携して取り組みました。

また、諸会議の運営や事業調整を実施し、円滑な組織の運営を図るとともに、公益財団法人として、理事会・評議員会の開催、神奈川県への報告等を的確に実施しました。

	事業区分	事業内容
1	円滑な組織運営	(1) 人材育成を図るための研修実施 ・労務研修「アルバイトを雇おうと思ったらー 知っておきたい社会保険と税」の開催 ・外部研修への参加（公益法人協会主催セミナー等） ・職員を講師とした人権啓発研修 (2) 職員が自らのキャリアパスを意識できる申告制度の実施 職員自己申告の実施 (3) 役員会議等の諸会議の開催、規則整備 役員会議（第1部、第2部） 月2回 課長会議 月2回程度 担当係長会議 月1回程度 <主な内容> ・新型コロナウイルス感染拡大防止対応について ・第6期協約について ・文化庁補助事業について
2	人事労務・財務の管理	(1) 職員の採用、異動等雇用管理 (2) 就業規則ほか諸規則の整備及び運用 (3) 給与、社会保険、税金関係等 (4) 定期健康診断の実施等による安全・衛生管理、福利厚生施策 (5) 職員メンタルヘルスの支援 (6) 寄附金・協賛金獲得の企画調整
3	予算編成と執行管理	(1) 予算要求制度の継続実施 (2) 予算編成、執行管理、決算の実施
4	災害対応	(1) 各施設の危機管理マニュアルの見直し (2) テロ対策訓練の実施
5	理事会・評議員会の開催	(1) 理事会の開催 年5回（書面開催1回、リモートを併用） (2) 評議員会の開催 年2回（書面開催） (3) 神奈川県への報告

6	所管局への報告・調整	(1) 指定管理・委託事業の報告提出(月次、四半期、年度) (2) 事業報告・決算書に基づく報告 (3) 新型コロナウイルス感染拡大防止対応等の報告・調整 (4) 課題の共有と迅速な対応を図るための意見交換の実施(毎月)
7	共同広報の実施	(1) 財団ホームページの管理(情報公開項目の更新等) (2) 財団メルマガ「よこはま歴史かわら版」発行
8	情報システムの管理	(1) 情報システム機器(ソフトウェア等を含む)の保守・管理 (2) 情報セキュリティに関する啓発・研修 (3) 財団内システムの円滑な運用 (4) 在宅勤務者へのシステム対応
9	事業推進	(1) 事業戦略に係る共通認識の形成 ・課長会議、管理運営担当係長会議を通じた共通認識の形成 (2) 財団の役割や事業を伝える効果的な広報戦略の実施 (3) 市民協働の推進 (4) コロナ下における博物館活動の検討、実施
10	エデュケーター事業	(1) 学校連携による財団各施設の利用促進 (2) 教職員研修の企画・調整・運営 ・横浜市教委、小・中社会科研究会、財団が主催する研修 (3) 社会科を中心とした授業改善に向けての協力・連携・支援 (4) 学校から要請のあった訪問授業への対応 ・実施校 73 校、対象児童 7,146 人 (5) 博物館来館校の対応 (6) 子どもの学びのための資料作成

事業別評価

事業名称	実施概要	評価
本部事業	新型コロナウイルス感染症対応に際して、横浜市と連携して適切に対応した。文化庁補助事業など外部資金の確保により、正味財産期末残高は2億5千万円を確保することができた。7月に拠点計画推進課を立上げ、「横浜開港資料館 文化観光拠点計画」の推進体制を構築した。デジタル化など新たな取組を評価指標に盛り込んだ第6期協約を策定した。また、公益財団法人として諸届の事務、業務の調整、諸会議の運営、人事労務事務等は適切に実施することができた。	S

Ⅱ 指定管理事業

1 財団全体としての取組及び事業

各施設では、SNS等による情報発信を強化するとともに、展示解説の動画の制作やオンライン講座の開催など、博物館に直接来館せずとも横浜の歴史に触れられるよう工夫を凝らしました。

また、小机城の発掘調査の報告について、教育委員会と連携し「現地説明会」を開催したことや、港北区とともに「お城 EXP0」で情報発信したこと、旭区と連携し「畠山 重忠」の啓発パネルを作成するなど連携事業を推進しました。今後も職員の知識、経験、行動力を集結し、多様な組織と連携しながら、取組を進めていきます。

【多様な組織との連携および地域への貢献】

連携	連携先	中心となる施設	内 容
区・地域との連携	全区	全管理運営施設	・各管理運営施設の所在区をはじめとして、各区の要請等により、歴史文化に関する助言や執筆活動等による支援を実施
	特定テーマや事業を通じた連携	神奈川区 歴史博物館	・横浜 LOVEwalker「旧東海道神奈川宿記事原稿作成」
		中区 開港資料館 都市発展記念館	・「広報よこはま なか区版」の連載記事「中区歴史の散歩道」に執筆
		保土ヶ谷区 歴史博物館	・横浜 LOVEwalker「旧東海道保土ヶ谷宿記事原稿作成」
		旭区 歴史博物館	・大河ドラマに関連し、畠山重忠関連の解説パネルを制作
		金沢区 歴史博物館 埋文センター	・「むかし体験」訪問歴史授業を実施 ・金沢図書館と講座「金沢の考古学」を共催
		港北区 歴史博物館 埋文センター	・小机城跡発掘調査映像を制作 ・お城 EXP02021 で小机城発掘成果をパネル展示により紹介
		青葉区 埋文センター	・勾玉作り教室、遺跡巡りを開催（青葉台コミュニティハウス、美しが丘西地区センター）
		都筑区 歴史博物館	・都筑図書館と「都筑区の民家」をテーマにした共催講座及び関連展示を実施
市との連携	市民局	歴史博物館	・区内設置の歴史看板の内容確認 ・図書館開設 100 周年事業「栄の遺跡」図書館展示・図説刊行協力・講演会講師派遣 ・栄区郷土資料室入室・受付・案内
			・広報課発行「季刊誌横濱」への執筆 ・広報番組 TVK「ハマナビ」、ニッポン放送「ようこそ横浜」等への出演

		開港資料館	・広報課発行「季刊誌横濱」各号への執筆 ・広報番組 TVK「ハマナビ」、FM ヨコハマ「YOKOHAMA My Choice!」等への出演
	環境創造局	開港資料館 都市発展記念館	・発掘調査および歴史的建造物の保存改修工事等への助言
	交通局	都市発展記念館	・市営交通 100 周年事業に監修等の協力
教育委員会との連携	小中学校企画課	全施設	・教材研究資料として財団作成資料等を発信 ・教職員研修への協力
	教職員育成課	全施設	・新採用教員への施設年間無料パスを配布
	生涯学習文化財課	全施設	・歴史博物館「令和 3 年度横浜市指定登録文化財展」、企画展「浄土の庭」の共同開催 ・文化財調査への協力 ・遺跡現地説明会への協力 ・関家住宅公開への協力 ・横浜市文化財保存活用地域計画の作成協力および協議会委員の派遣
市・区研究会との連携	社会科研究会（市・区）	全施設	・教員研修講師、施設見学、教材研究用資料案内 ・小学校博物館利用研究会の運営支援 ・中学校教材開発研究会の運営支援
学校との連携	小学校	全施設	・歴史学習、社会見学、展示見学の受入 ・学芸員、エデュケーターによる訪問授業
	小中学校	歴史博物館	・学校資料室の資料整理及び活用支援
	神奈川県高等学校文化連盟	歴史博物館 開港資料館 都市発展記念館	・神奈川県高等学校文化連盟との共催で社会科研究発表大会をリモートで開催し、各館職員が審査員を担当
	横浜英和学院	歴史博物館	・歴史展示室新設計画にあたり助言と監修を実施
	横浜山手中華学校	ユーラシア文化館	・展覧会での資料借用、提携
	横濱中華学院	ユーラシア文化館	・学校外壁歴史パネル作成への協力
	近隣小学校	三殿台考古館	・小学校の地域交流クラブに講師を派遣 ・総合的な学習の時間等への支援
	小学校	埋蔵文化財センター	・近隣小学校の修学旅行（鎌倉）への文化財解説講師として調査研究員を派遣
他館等との連携	神奈川県博物館協会	歴史博物館	・部会への職員派遣 ・川崎市市民ミュージアムの資料レスキューのため職員を派遣
	神奈川県歴史資料取扱機関連絡協議会	歴史博物館	・定例会に職員を派遣
	県立歴史博物館等	歴史博物館 ユーラシア文化館	・展覧会への資料の貸出 ・展覧会準備や調査研究を目的とした資料熟覧対応 ・調査および展覧会への協力（洞穴遺跡展）

	(公財)かながわ考古学区財団	歴史博物館	・令和 2 年度発掘調査出土品等展示会及び発掘調査成果発表会の開催
	奈良県立橿原考古学研究所	ユーラシア文化館	・橿原考古学研究所附属博物館と共催で巡回展「しきしまの大和へ」を開催
大学との連携	大学	歴史博物館	・東海大学と協働し、文化財資料の教育活用事業による博物館実習を実施 ・神奈川大学日本常民文化研究所と企画展「布 うつくしき日本の手仕事」を共同開催
	大学	開港資料館	・国文学研究資料館が主宰するアーカイブズ・カレッジ（史料管理学研修会）の受入れ
	大学	開港資料館 都市発展記念館	・東海大学文学部歴史学科と共同で、アジア太平洋戦争期の相武地域史に関する研究を実施
市民協働	市民ボランティア	歴史博物館	＜展示解説ボランティア＞ ・大塚遺跡等の野外施設及び常設展示室の解説を、感染対策を徹底した上で実施 ・学校団体へのガイドは、可能な限り小グループに分けて実施 ＜活動支援ボランティア＞ ・感染対策を徹底した上で、「当日参加型れきし工房」の実施に協力 ・鉄道展での H0 鉄道模型運行に協力
	横浜郷土史団体連絡協議会	歴史博物館 開港資料館	・研修会、記念講演会は中止となったが、総会を開催し、協議会 News 及び会報発行に協力
	横浜歴博もりあげ隊との協働	歴史博物館	・講演会の共催 ・会報、つづき人交流フェスタ等への活動支援
	横浜縄文土器づくりの会	歴史博物館	・博物館の調査研究活動に協力 ・実験考古学講座の開催
	古文書を読む会	歴史博物館	・原則として月 2 回の講座の開催支援 ・有志による調査研究活動の実施 ・特別講座の開催支援
	古代史料を読む会	歴史博物館	・原則として月 1 回の講座の開催支援 ・特別講座の開催支援
	横浜さいかちの会	歴史博物館	・史料購読講座の開催支援 ・15 周年記念事業、史蹟見学会の開催支援
	スタチューパフォーマンズ協会	開港資料館 都市発展記念館 ユーラシア文化館	・第 2 回横浜ユーラシア・スタチューミュージアムを開催し、日本大通りに加えて、横浜中華街の合計 9 会場に 19 体のスタチューを設置
	遺跡ガイドボランティア及び遺跡整理ボランティア	三殿台考古館 埋文センター	・遺跡ガイドボランティアによる常設展示、遺跡ガイドを実施 ・ボランティアの協力を得て出土資料や写真の再整理を実施

	よこはま縁むすび講中	歴史博物館	・北部 4 区の(公財)大倉精神文化研究所、小机城のあるまちを愛する会、みどりアートパーク、横浜市民ギャラリーあざみ野と連携し、実行委員会を組織して実施
	よこはま地域文化遺産デビュー・活用実行委員会	歴史博物館	・企画展「美術の眼、考古の眼」の関連事業として「ナイトミュージアム&ミュージック」を実施
	文化交流サロン For our Tsuzuki	歴史博物館	・ドキュメンタリー映画「スズさん」上映会及び高橋美江氏「スズさん」イラスト原画展を開催
	区や地域の郷土史団体	歴史博物館	・講座、講演会に講師を派遣
	横浜商工会議所	開港資料館	・機関誌「Yokohama 商工季報」への寄稿
	横浜港振興協会	開港資料館	・機関誌「よこはま港」への寄稿
	横浜市防火防災協会	開港資料館	・機関誌「よこはま都市消防」への寄稿
	中区区民利用施設等	ユーラシア文化館	・「なか区ブックフェスタ」に参加
	横浜中華街発展会	ユーラシア文化館	・第2回スタチューミュージアム、企画展示での連携 ・横浜中華街発展会協同組合 50 年史編纂事業に参加
	横浜媽祖廟	ユーラシア文化館	・企画展示での連携
	横浜関帝廟	都市発展記念館 ユーラシア文化館	・出土物調査 ・企画展示での連携
	中華会館	ユーラシア文化館	・企画展示での連携、資料室の展示協力
	神奈川県日中友好協会	ユーラシア文化館	・機関紙「日中友好の輪」への寄稿
	磯子区館長連絡会	三殿台考古館	・区内市民利用施設の連携・情報交換
	栄区施設交流会	埋文センター	・区内市民利用施設の連携・情報交換
	栄地域史研究会	埋文センター	・考古学講座、歴史散策を共催
企業との連携	横浜メディアビジネス総合研究所	歴史博物館	・よこはま縁むすび講中事業について協働で広報・情報発信活動を推進 ・鉄道展において共同で協賛金募集活動を実施

2 歴史博物館事業

新たな協約の初年度となる令和3年度は、前年度に引き続いて「ウィズコロナ」時代の博物館を模索する1年となりました。利用者の意識の変化に幅広く対応し、収入増加や外部資金の導入を図りながら博物館活動を進めるとともに、地域の活性化や社会的包摂といった公共施設として担う役割を果たすべく取り組みを続けてきました。

資料収集では、調査と整理を続けてきた市域の名主家文書2件を始め、市指定有形民俗文化財「オシャモジサマ」、また市教委に移管となった横浜スカーフアーカイブ資料や芝山漆器屏風の保管など、横浜市の歴史に関する資料保存機関としての役割を確実に果たしました。調査研究事業では、基礎資料研究や連携調査研究14本を進めました。市教委による学術発掘が行われた小机城については周辺の歴史調査を行ったほか、港北区と連携して発掘調査の映像記録を行いました。調査研究の成果として小宮山博史活字関係資料を調査研究報告に、3つの報告や資料紹介を紀要に掲載しました。今後も企画展などで成果を公開していきます。

常設展事業では、感染症対策を徹底して展示解説ボランティアを再開しました。来館者のスマホ等を利用するシステムを継続活用し、多言語解説アプリではコンテンツの充実を図りました。このほか学校連携やかながわ考古学財団の発掘調査成果など、多様なニーズに応えるミニ展示も実施しました。一方歴史劇場の故障など、26年を経過して発生している不具合の対応は大きな課題です。

企画展事業は、世界遺産となった「北海道・北東北の縄文遺跡群」の構成遺跡である岩手県御所野遺跡を紹介した「縄文ムラの原風景」、東北地方で木綿以前から使われてきた布とその美しい手仕事をテーマにして神奈川大学と共同で開催した「布」、横浜地域唯一の大名であった米倉家を紹介した「横浜の大名」、国史跡指定100年を迎えた称名寺境内をテーマにした「浄土の庭」と今年度新たに指定された文化財を紹介した「横浜市指定登録文化財展」、市域出土の縄文土器と3人の現代アート作家の作品をコラボした「美術の眼、考古の眼」、という市民の多様な生涯学習のニーズに応えた6本を開催しました。「横浜の大名」ではクラウドファンディングを実施し、学術的成果を反映させた「横浜の大名」展図録や可視化した手仕事の写真を掲載した「布」展図録の販売は目標を上回り、ミュージアムショップの売上にも貢献しました。

企画普及事業は、コロナの状況に応じて対面とオンラインや配信による催しをバランスよく実施しました。展示解説ボランティアは6年ぶりに新規募集を行い、新たに35名が登録しました。学校連携事業では各種の訪問授業を始め、多様な連携事業などを実施し、広報では各種チケットサービスを利用した前売券販売を新たに試行しました。

よこはま縁結び講中は、本年度から開始した横浜北部にある地域文化遺産をつなぐ取り組みで、文化庁の「地域と共働した博物館創造活動支援事業」の助成を得て、中核館の当館と大倉精神文化研究所、小机城のあるまちを愛する会、みどりアートパーク、横浜市民ギャラリーあざみ野で実行委員会を組織し、実施しました。各団体のオリジナリティあふれる多彩な事業をそれぞれが緩やかに相互連携しながら実施し、充実したプログラムが展開できました。

施設の管理運営では、ガイドラインに則した感染症対策を実施して安全で安心な来館環境づくりに努め、開館以来26年が経過した施設・設備についても日頃からの監視と保全に取り組み、安定した運営を支えました。収益事業では、ショップの新商品開発や企画展関連商品の充実を進め、オン

ラインショップを含めた今期売上は 1400 万円となり、2 年連続で 1000 万円台半ばを達成しました。駐車場事業は、所管局と調整して駐車場管理会社への委託によるコインパーキング化を図り、キャッシュレス対応による利便性の向上とともに、費用超過を解消しました。

1 資料収集保管事業（定款第 4 条第 1 項第 1 号①）

展示・教育・普及・閲覧公開等の博物館活動に活用する資料を、寄贈・移管等の方法で収集し、分類・整理するとともに良好な状態で保管するため、資料の燻蒸を行いました。

また、神奈川県博物館協会の川崎市市民ミュージアムの資料レスキューに職員を派遣しました。

（1）資料の収集・管理

項 目	点 数	事 業 内 容
資料の寄贈・寄託	寄贈 8 件 5,460 点 寄託 4 件 1,660 点	主な寄贈資料：中区本牧澁谷信男氏所蔵資料 金子修司氏所蔵珮コレクション 主な寄託資料：オシャモジサマ（奉納杓子） 栄区小菅ヶ谷村名主（牛尾家）資料 神奈川より六浦まで陸海絵図
移管資料の保管	移管 2 件	主な収集資料： 横浜スカーフアーカイブ資料 1 件 （経済局工業技術支援センターより教育委員会生涯学習文化財課に移管後、保管場所を当館とした） 横浜芝山漆器屏風 1 件 1 点 （政策局秘書課より教育委員会生涯学習文化財課に移管後、保管場所を当館とした）
資料の整理活用（収集資料のデータ入力）	2,192 件	図書文献資料のデータ入力を行った。
資料の整理活用（収集資料の貸出）	3 件 17 点	他機関における展覧会、および調査研究を目的に資料の貸出を行った。 ・埼玉県立さきたま史跡の博物館令和 3 年度企画展「運ぶ ―埼玉古墳群とモノの動き―」 会期：令和 3 年 7 月 10 日～9 月 12 日 北門一号墳出土資料（横浜市指定文化財）のうち 「筒袖表現の人物埴輪」 「振分髪で美豆良表現の人物埴輪」 ・令和 3 年度小田原城天守閣特別展 没後 450 年「北条氏康伝」 会期：令和 3 年 12 月 18 日～令和 4 年 2 月 28 日 「北条氏康書状」（横浜市指定文化財・上原家文書のうち） 「北条氏康書状」複製

		・千葉大学 阿部昭典准教授「縄文時代の繊維土器の製作技術解明」科研費・新学術領域(A)の計画研究に関わる研究 貸出期間：令和4年1月26日～3月31日 「能見堂遺跡出土土器」13点
資料の整理活用（収集資料の特別利用）	18 件	他機関における展覧会、および調査研究を目的とした資料の熟覧、撮影等特別利用に対応した。 18 件のうち 考古資料 15 件、古文書 2 件、歴史資料 1 件
図書資料の公開	3,767 件	図書閲覧室で、文献資料の公開及びレファレンスを行った。
写真資料の撮影・整理	撮影数 1,762 カット	常設展示や企画展・特別展に関する資料及び収蔵資料の撮影と整理を行った。
画像資料の貸出	貸出件数 45 件 90 点	他の博物館や公共機関、出版社、放送局などへの写真資料の貸出を行った。

（２）資料収集内訳（R3.4～R4.3）

※（ ）内は、前年度点数

区 分	購入	複製	寄贈	寄託	合計	累計
絵 画 （点）	（―）	（―）	（―）	(1)	(1)	1,986 (1,986)
工芸品 （点）	（―）	（―）	（―）	（―）	（―）	132 (132)
彫 刻 （点）	（―）	（―）	（―）	(1)	(1)	21 (21)
書 跡 （点）	（―）	（―）	（―）	（―）	（―）	54 (54)
典 籍 （点）	（―）	（―）	（―）	（―）	（―）	4,709 (4,709)
古文書 （点）	（―）	（―）	1,121 （―）	292 (1,357)	1,413 （―）	34,922 (33,509)
古記録 （点）	（―）	（―）	（―）	（―）	（―）	55 (55)
絵 図 （点）	（―）	（―）	（―）	1 （―）	1 （―）	173 (172)
歴史資料 （点）	(1)	（―）	2 (16)	（―）	2 (17)	18,903 (18,901)
考古資料 （点）	（―）	（―）	37 （―）	（―）	37 （―）	24,572 (24,535)
民俗資料 （点）	（―）	（―）	4,867 (20)	222 （―）	5,089 (20)	22,684 (17,595)
図書文献資料 （点）	116 (120)	（―）	1,442 (1,497)	（―）	1,558 (1,617)	77,149 (75,591)
合 計	116 (121)	（―）	7,469 (1,533)	515 (1,359)	8,100 (3,013)	185,360 (177,260)

このほか、資料の移管により、横浜市所蔵の横浜スカーフアーカイブ資料・横浜芝山漆器屏風を保管した。

(3) 図書閲覧室利用状況

項 目	令和3年度	令和2年度	令和元年度
閲覧室利用者数(人)	5,222	4,495	4,287
複写申込件数(件)	266	221	141
複写枚数(枚)	3,021	2,081	1,700
レファレンス件数(件)	298	260	223

※令和2年度開室期間 7/1-3/31 (新型コロナウイルス感染拡大防止)、令和元年度開室期間 4/1-7/31 (施設改修工事)

(4) 資料の保管

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
文化財害虫への対応	新規収蔵資料はすべて燻蒸を実施の上、収蔵庫に搬入したほか、収蔵庫から出した資料は、資料の種別や利用場所等に応じて点検を行い、必要のある資料は再度燻蒸して入庫する措置をとった。
保存燻蒸処理	二酸化炭素燻蒸を4月、9月、11月、2月の計4回行なった。
環境検査	館の環境を把握するため、定期的に昆虫類モニタリング、菌類測定、塵埃測定、光学的測定を行った。

(5) 資料保管施設の管理

保管施設	保 管 資 料
歴史博物館収蔵庫 (1,901 m ²)	原始・古代から近現代までの各資料を保管する考古収蔵庫・歴史収蔵庫・特別収蔵庫・民俗収蔵庫の管理を行った。庫内および前室の環境を見直し、清掃方法を確認し、防塵マットの設置・交換を行った。

(6) 博物館資料レスキュー

川崎市市民ミュージアムの博物館資料レスキューのために神奈川県博物館協会に職員を派遣し、歴史資料の乾燥・解体などの作業に当たった。夏季以降は新型コロナウイルスの感染拡大により、参加を見合わせた。

5/18 (火)	1 日間	1 名
合 計	1 日間	1 名

2 調査研究事業 (定款第4条第1項第1号①)

博物館活動の原資となる調査研究は、(1) 基礎資料研究、(2) 他施設と連携して行なう連携調査研究、(3) 次年度以降の企画展開催に向けた調査研究、(4) 資料の基礎整理について、次の通り実施しました。

(1) 基礎資料研究

項 目	目的・意図
基礎研究	
市域所在の中世資料の調査（１／２年次）	本調査研究では、ひきつづき市域に所在する中世資料の再確認を実施した。またその他市域に所在する古文書・金石文等の資料について、近世・近現代の財団職員と連携し、調査と撮影を行った。 今年度は、博物館で調査をすすめている「関家文書」整理を行ったほか、新羽町伊藤宏見氏旧蔵資料について現地での実見・整理を行った。また戦国期に港北区新吉田町に所領を得ていた伊豆国の土豪・高橋郷左衛門にかかわる古文書について知見を得たため、来年度以降に調査・撮影を行う予定である。
横浜市域の美術史の基礎的研究（１／２年次）	当館及び財団諸施設また市域の旧家には多くの絵画資料が存在するが、当館では歴史資料としてのみ扱われてきたため見過ごされてきた。これらを美術史の文脈として捉え基礎的データを作成する。 本年度は、収蔵資料を中心に、浮世絵作品を対象に、必要な収蔵目録情報を加える再調査を実施し、作品情報の追加・修正を行った。横浜市文化財調査の一環で実施した寶林寺（南区北永田）の宝物調査並びに整理を継続実施した。将来的には館蔵の禅宗画と合わせて横浜の禅林美術をテーマとした展覧会に結実するよう、今後も調査を進めていく。
横浜市指定・登録民俗文化財に関わる調査研究（１／１年次）	横浜市指定・登録の民俗文化財を伝承してきた地域について民俗調査を実施し、伝承母体と地域性などを明らかにする。 本年度は、文化庁の地域文化財総合活用推進事業を申請・活用しながら、都筑区池辺町八所谷戸に伝わる横浜市指定無形民俗文化財「鶴見川流域の廻り地蔵」に使用される地蔵菩薩像および厨子の修繕とそれに関する調査をおこなった。
横浜市域の古墳時代資料の研究（１／２年次）	上矢部町富士山古墳出土埴輪のうち、令和元年度の報告書刊行後に見出された形象埴輪片の写真撮影を行った。形象埴輪の台帳化を進め、令和４年度での基礎データの整備完了を目指した。稲荷前古墳群・市ヶ尾横穴墓群（神奈川県指定史跡）の調査時資料の確認については、今後の課題としたい。
テーマ研究	
近世後期横浜内陸部の村々の研究（１／２年次）	横浜市内陸部の村落について、当館所蔵・寄託資料（荏田村青木家文書、川和村信田家文書、山田村織茂家文書など）の目録等を確認し、江戸時代後期の治安等に関わる資料を集中的に解読した。令和４年３月９日（水）に実施した講座「幕末の都筑の村々」（於：加賀原地域ケアプラザ）にて成果を発表した。
活字文化と横浜の出版文化に関する研究（１／２年次）	活字史の研究成果を整理し、横浜における活字の発展の歴史を明らかにする。 本年度は活字史研究家小宮山博史氏より寄贈された資料の再整理を進め、目録を編集した。また同コレクションを活用した平仮名・片仮名字形一覧の基礎データ作成作業を引き続き行った。今後成果を紀要等で報告したい。
学校内歴史資料室に関する研究（１／２年次）	平成 25 年度から実施している学校内歴史資料室の資料整理の成果を活用しながら、学校内歴史資料室の資料所在状況等を明らかにする。

	本年度は昨年度に引き続き鶴見区の寺尾小学校のふるさと資料館所蔵資料 535 点の整理をおこない終了した。
都筑区川和町中山家に関する研究（1／2 年次）	平成 30 年度から「よこはま地域文化遺産デビュー・活用事業」（文化庁地域の美術館・歴史博物館クラスター形成支援事業）として実施している資料整理中にみつけた文字資料としての冊子類について調査研究を行い、紀要にて「翻刻 中山恒三郎家「営業簿」（昭和五～六年）」として発表した。
市民協働調査研究	
土器の実験考古学的研究（1／2 年次）	大塚遺跡出土宮ノ台式土器の広口壺および壺蓋を横浜縄文土器づくりの会の協力を得て 6 セット製作した。山形大学の白石哲也准教授と協働し、製作した土器のうち 3 セットを用いて魚醤の製作実験を行い、その結果を当館紀要第 26 号にて報告した。
市民協働古文書整理解読（1／2 年次）	武州金沢藩の目付日記（明治 3 年）後半部分の解読を行い、紀要にて成果を報告した。昨年度に引き続き、コロナ禍に対応し、オンライン会議システムを利用してリモートで輪読を行った。また、本研究の成果は、今年度実施した企画展「横浜の大名 米倉家の幕末・明治」の根幹となった。
市民協働民俗調査（1／2 年次）	昨年度より引き続き、民俗に親しむ会とともに、鶴見川の支流である恩田川流域のフィールドワークを実施した。また夏季にはこれまでの FW の内容を深める勉強会を 2 回実施したほか、12 月には「杉山神社フォーラム」に参加した。5/3 緑区台村町・三保町 FW、7/18 勉強会「恩田川の堰について」・「石造物の費用について」、9/19 勉強会「溝口石工内藤慶運について」、10/17 雨天中止、11/3 緑区台村町・寺山町 FW、12/11 勉強会「杉山神社フォーラム」、2/23 緑区小山町 FW。

（2）連携調査研究

複数の時代・分野に関わるテーマについて、当財団が管理する諸施設との連携研究を実施した。

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
小机城・小机地域にかかわる総合的研究（1／5 年次）	今年度は 11 月～12 月にかけて横浜市教育委員会が実施した小机城発掘調査について周辺の歴史調査を行うと同時に、発掘調査の様子を映像に納めた。地域資料としては小机町・鈴木家に存する「豊臣秀吉禁制」の実見を行った。
大塚遺跡の水田に関する研究（1／2 年次）	全国の研究者が参画する水田稲作技術比較研究プロジェクトのメンバーとして月 1 回の例会に参加するとともに 12 月 18・19 日に実施したシンポジウムにて当館の活動を紙上発表した。 水田稲作技術比較研究プロジェクトの活動と並行して水稻および陸稲の栽培を継続して実施した。 金沢大学の佐々木由香特任准教授と協働し大塚遺跡出土土器の圧痕調査を 6/20・11/27・28・2/11 の 4 回実施した。
ユーラシア概念をめぐる研究（1／2 年次）	ユーラシア文化館と連携して、日本の古代から中世世界を包括する東部ユーラシア世界の研究を進める。

	今年度はコロナ禍の影響で研究発表会を開催することができなかった。
--	----------------------------------

(3) 企画展関係にともなう調査研究：企画展・特別展の開催に向けての調査研究

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
企画展「みんなでつなげる鉄道 150 年」	展示計画を検討し横浜市内を走る 10 社の鉄道会社の協力の下、各鉄道会社や各社の関連機関（企業ミュージアム）などへの資料調査を行った。
企画展「追憶のサムライ」	展示計画を検討し、資料所蔵機関や個人に対し調査・出陳交渉を行った。横浜市立大学学術情報センター所蔵の古代・中世文書の調査および撮影を行い、東光禅寺(金沢区)・清来寺(旭区)・太寧寺(金沢区)でも調査・撮影を行った。また展示プレ連続講座をはじめとする関連事業を組み込み、企画展の特設 Web サイトの制作を進めた。旭区役所と連携し、畠山重忠解説パネル制作を行った。
「活字の世界(仮題)」	展示計画を検討し、資料所蔵調査および借用予定資料の調査を行った。
令和 5 年度以降企画展調査	令和 5 年度以降の企画展について、基礎調査を行った。

(4) 資料の基礎整理

資料収集や調査研究に係わる資料について整理を行った。

	資料群	点数	備考
1	栄区旧家古文書	150	完了
2	中区旧家古文書	405	完了
3	港北区旧家古文書	1460	完了
4	金沢区旧家古文書	105	完了
5	へボン関係資料	100	継続
6	活字関係寄贈資料	100	継続
7	平尾家コレクション（郷土玩具）	2,693	継続

このほか、横浜市教育委員会からの依頼により、令和 3 年 4 月～令和 4 年 3 月まで横浜市八聖殿郷土資料館所蔵の民俗資料の整理調査、伊藤宏見旧蔵資料の整理調査・作品撮影・東海大との協働による文化財資料の教育活用事業による博物館実習との連携を行った〔5－(7) 参照〕。

(5) 調査研究報告の刊行

『横浜市歴史博物館調査研究報告第 18 号』を刊行した。

今号は、数年にわたり再整理を行ってきた小宮山博史文庫について、成果をまとめ目録を公開した。文庫は内外の貴重な活字史関係資料を集めたもので、館内での活用のみならず、広く活用が見込まれる。

なお調査研究報告は今号よりデジタル化し、博物館ホームページにて PDF データを公開することとした。

(6) 紀要の刊行

『横浜市歴史博物館紀要第 26 号』を刊行した。今号は以下を掲載した。なお、調査研究報告同様、紀要は今号よりデジタル化し、博物館ホームページにて PDF データを公開することとした。

- | | |
|-------|--|
| 論文 | ・幕末期相給村落の村政運営 ―武蔵国都筑郡山田村の事例―
・朝光寺原式土器の根源的研究 ―朝光寺原・三殿台遺跡を中心に― |
| 研究ノート | ・大塚遺跡には何軒の住居跡があったのか？ |
| 報告 | ・日本列島における魚醤の起源解明に向けて(1)
―弥生土器製作実験と使用実験の経過報告―
・先史考古学者山内清男とその著作目録
・風絵にみる兜について ―金子富夫風コレクション― |
| 資料紹介 | ・「〔神奈川より金沢まで沿岸図〕」について
・「明治三年 武州金沢藩（六浦藩）監察日記」(2)
・翻刻 中山恒三郎家「営業簿」(昭和五～六年) |

(7) 調査への職員派遣

下記調査に職員を派遣した。

名称・日程	派遣人数	内 容
横浜市文化財調査	1 名	横浜市教育委員会による文化財の総合調査 11/15（月）宗教法人阿弥陀寺（磯子区） 宗教法人東光寺（南区）

3 常設展事業（定款第 4 条第 1 項第 1 号②）

常設展示室においては、新型コロナウイルス感染拡大防止策を徹底し、展示解説ボランティアによる常設展示室の解説を再開しました。

実施した事業は、年度を通じて文化観光局より移管された横浜彫刻家具の紹介展示を行ったほか、9-12 月に市内小学校 4 年生の見学に対応するためスタディサロンに「吉田新田の歴史」展示を行い、1-3 月には市内小学校 3 年生の見学に対応して「ちょっと昔の道具」展示を行いました。歴史劇場では多言語化解説のコンテンツのうちシアター連携機能の運用を開始しましたが、2021 年末に劇場内のプロジェクター故障が起こり、年度末まで上映できませんでした。

(1) 保守点検・維持管理

展示資料・ジオラマ類・映像機器類の保守点検および清掃は、コロナ禍による予算削減を受けて、歴史劇場保守 1 回、近世桜屋模型の照明交換および全体調整 1 回の実施とし、各時代ブースの模型清掃は年度末に実施した。また吉田新田風景模型の故障については所管局に要請し、照明を LED とした内部装置に更新した。

(2) 常設展示室の構造と特色を生かして、来館者の満足度を高めるための事業を行った。

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
常設展示室ミニ展示の実施	令和3年度を通じ、文化観光局より移管された横浜彫刻家具(坂田武雄氏旧蔵)の紹介展示を行った。 9月～12月に、市内小学校4年生の見学に対応し、「吉田新田の歴史」展示を行った。 1月～3月に、市内小学校3年生の見学に対応し、「ちょっと昔の道具」展示を行った。
デジタルサイネージの運用	「茅ヶ崎城址公園(中世)」と「東海道と横浜の宿場(近世)」のスライド上映による解説をスタディサロンに常設し、上映した。また、新たに「廻り地蔵(民俗)」の解説を作成し、上映した。
多言語化解説のコンテンツ運用	昨年度に導入した日本語、英語、中国語(繁体字・簡体字)、韓国語での多言語解説アプリ「ミュージナビ」を、常設展示室にて運用した。

(3) 常設展示室観覧者の推移(令和3年度 基本観覧想定数 9,400人)

	有料観覧者(人)					無料観覧者 (人)	合計 (人)	前年比	開館 日数	1日平均 入館者(人)
	大人	シニア	高大	小中	計					
3年度	11,811	4,300	981	3,223	20,315	15,064	35,379	129.9%	306日	116
2年度	9,943	3,624	139	2,168	16,474	10,755	27,229	75.7%	254日	107
元年度	4,037	—	582	3,690	8,309	27,627	35,936	52.6%	108日	332

4 企画展事業(定款第4条第1項第1号②)

常設展示を補うテーマや、新たな調査研究の成果に基づく企画展示、他館との連携による巡回展を開催しました。関連事業は感染症対策を踏まえて、実施しました。

(1) 企画展・特別展の実施

※目標数はコロナ禍以前に算出した数値

企画展名/開催期間	観覧料	観覧者数	目的・意図 及び 内容・成果
企画展「縄文ムラの原風景 目指せ世界遺産! 岩手県御所野遺跡」 令和3年4月10日(土)～6月27日(日) 会期79日 開館日数68日	一般 800円 高大 400円 小中市内在住65歳以上 100円	7,328人 1日あたり 108人	本企画展は、2021年度中に世界遺産登録を目指す「北海道・北東北の縄文遺跡群」のうちのひとつ、岩手県御所野遺跡について紹介する巡回展(盛岡会場は3月6日～3月21日、千葉会場は5月22日～6月27日)として御所野縄文博物館と連携協力の上実施した。5月26日に世界遺産登録について記載勧告があり、全国ニュースなどで報じられるなど話題性が強かったこともあり、企画展の内容に加えて「北海道・北東北の縄文遺跡群」についてパネル展で紹介したり横浜から出土

		した同時代の土器を展示したりして、世界遺産や考古学に興味ある層に対して働きかけた。 コロナ禍でなかなか外に出ることのできない層に対しては Twitter を使用した全 14 回の展示解説を実施した。 当初計画していた関連事業のうち、縄文体験ワークショップは全て中止、ギャラリートークは 6/26・27 を除き中止とした。 6/6 お菓子作り実演・6/13 土偶マイム・6/19 縄文マイムという当館独自の取り組みも実施した。 図録 販売 309 冊 関連事業 ①講演会 場所：講堂 時間：14:00～16:00 参加費：500 円（収入は御所野縄文博物館へ） （１）「縄文ムラ原風景-縄文遺跡群の世界遺産登録について」 講師：菅野紀子氏（御所野縄文博物館学芸員）・高田和徳氏（御所野縄文博物館館長） 日程：5/16（日） 参加者数：77 人 （２）「縄文時代から続く北の編み組み」 講師：佐々木由香氏（金沢大学古代文明・文化資源学研究センター特任准教授） 日程：5/30（日） 参加者数：55 人 ②ギャラリートーク 講師：高田和徳氏（御所野縄文博物館館長） 日時および参加人数：6/26（土）14:00～15:00 32 人、6/27（日）10:00～11:00 30 人、14:00～15:00 38 人 合計 100 人 ③考古スイーツワークショップ「おかしな竪穴住居やけました！」 講師：ヤミラ氏（おかしづくり考古学研究所） 日時：6/6（日）14:00～15:00 場所：エントランスホール 参加費：無料 参加者数：38 人 ④土偶マイム - 世界遺産応援編 - 講師：白鳥兄弟 日時：6/13（日）11:00～・13:00～・15:00～
--	--	---

			会場:エントランスホール・企画展示室前 参加費:無料 参加者数 61 人、35 人、30 人 合計 126 人 ⑤縄文マイム 講師:藤居アルパッカー堂 日時:6/19(土)10:30～、11:30～、12:30～、13:30～、14:30～、15:30～、16:30～ 会場:企画展示室前 参加費:無料 参加者数:25 人、18 人、7 人、28 人、32 人、34 人 合計 144 人
企画展「布 うつくしき日本の手仕事」 令和 3 年 7 月 17 日 (土)～9 月 20 日 (月祝) 会期 66 日 開館日数 57 日	一般 1,000 円 高大 700 円 小中市内 在住 65 歳以上 500 円	6,231 人 1 日あたり 109 人	東日本大震災から 10 年を経た今年、東北地方で木綿普及以前から使われてきた様々な素材の「布」と、その衣服に施された手仕事の美しさを伝えるために、神奈川大学日本常民文化研究所（以下「常民研」）と共同で開催した。展示は常民研所蔵コレクションと、東北各地の優れた資料群を用いて紹介した。 会期は緊急事態宣言期間と重なり、感染拡大のため、後半に予定していた関連事業のうち対面の講座等についてはアーカイブ配信に変更する対応をとった。コロナ禍でオンラインショップの利用が高まり、会期中の売上の 1 割弱の 41 万円を数えた。図録販売も 2 割弱にあたる 159 冊がオンラインショップの利用であった。 図録 一般 895 冊、神奈川大 300 冊 合計 1195 冊 関連事業 ○講演会「衣服の禁忌とまじない」 常光徹氏（国立歴史民俗博物館名誉教授） アーカイブ有料配信 公開期間：9/18-10/3 参加者：90 名 視聴料 500 円 ○トークセッション「地域創生 西会津と鳥取と」 矢部佳宏氏（西会津国際芸術村ディレクター） 小林光一郎（横浜市歴史博物館） 羽毛田智幸（横浜市歴史博物館） アーカイブ無料配信 公開期間 9/4-19 視聴回数 前編 347 回 後編 138 回 ○ミニ講座「布にまつわるここだけの話」 ①自然布について 7/23（金祝）13:30～ 小野健太氏（自然布研究家・宵衣堂主宰）

			参加者 54 名 参加費 500 円 ②こぎんと菱刺し 昆政明氏（神奈川大学特任教授） アーカイブ無料配信 公開期間：9/11-26 視聴回数：556 回 ③原始布の過去・現在・未来 山村幸夫氏（原始布・古代織参考館館長） アーカイブ無料配信 公開期間：9/18-10/1 視聴回数：248 回 ④北国の布文化紀行 佐々木長生氏（元福島県立博物館専門学芸員） アーカイブ無料配信 公開期間：9/25-10/8 視聴回数：320 回 ○イブニングギャラリー ①8/6（金）小野健太氏（自然布研究家・宵衣堂主宰） 参加者 11 名 参加費 2,000 円 ②8/26（木）佐々木長生氏（元福島県立博物館専門員） →感染症拡大のため講師の来横が困難、刈田均（当館学芸員）に変更 参加者 10 名 参加費 2,000 円 ○原始布工房・出羽の織座展示会「原始布から自然布の世界にあそぶ」 9/9（木）～9/12（日） 観覧者 338 名 会場：研修室 ○型染めワークショップ（万祝染） 鈴木幸祐氏（千葉県伝統工芸品製作者） 鈴木理規氏 会場：工房 ①8/7（土）13:20～10 名、②8/8（日）9:20～9 名、 ③8/8（日）13:20～12 名 参加費：1,500 円 ○会津木綿ハギレワークショップ 菊池由紀子氏（アートコーディネーター） 会場：工房 ①7/24（土）10:30～12 名 ②7/24（土）13:30～12 名 参加費：1,500 円 ※9/5 実施分は 2022/1/22 に延期
企画展「横浜の大名 米倉家の幕末・明治 「日記」が伝える武州 金沢藩、激動の 4 年」 令和 3 年 10 月 2 日 （土）～11 月 23 日（火）	一般 500 円 高大 300 円 小中学生、 市在住 65	5,980 人 1 日あたり 133 人	横浜に陣屋を構えた唯一の大名、米倉家（武州金沢藩/六浦藩）の幕末維新期の動向を、同藩の目付の「日記」をもとに紹介した。「日記」は市民共同調査研究で平成 28 年（2016）から解説を継続しており、本展の内容はその成果を反映したものである。さらに、藩主米倉家のご理解・ご協力のもと、同家に伝来した藩主家資料も初

祝) 会期 53 日 開館日数 45 日	歳以上 100 円		公開した。関連事業では、自主事業のほかに NPO 法人横濱金澤シティガイド協会と連携した史跡めぐりを行った。また、外部資金獲得の試みとしてクラウドファンディングにも挑戦した。ミュージアムショップでは、オリジナルグッズを制作したほか、金沢区の「金沢ブランド」に認定された商品の販売を行った。 クラウドファンディング 87 万 9000 円（目標額 70 万円、達成率 125%） 図録 販売 811 冊、CF リターン 69 冊 合計 880 冊 関連事業 ①展示みどころ解説 場所：講堂 時間：各回 14：00～（40 分程度） 日程および参加人数：10/9（土）67 人、11/6（土）62 人、11/23（火祝）76 人 合計 205 人 ③ミニ講座「日記」を読む 講師：小林紀子（当館主任学芸員） 場所：講堂 時間：14:00～15:30 参加費：500 円 （1）「慶応 4 年・明治 2 年の「日記」から」 日程：10/31（日） 参加人数：72 人 （2）「明治 3 年・明治 4 年の「日記」から」 日程：11/21（日） 参加人数：66 人 ③武州金沢藩ゆかりの地 浦賀の史跡を歩く 講師：神谷大介（横浜開港資料館調査研究員） 日時：11/16（火）13:30～16:30 参加費：500 円 参加人数：18 人 ④横濱金澤シティガイド協会連携「幕末・明治の米倉家の史跡を歩く」 日時：11 月 2 日（火）9：30～12：00 参加人数：78 人 ⑤金沢図書館出張展示解説 日時：11 月 7 日（日）14:00～15:00 場所：金沢地区センター大会議室 参加人数：50 人
令和 3 年度 横浜市指定・登録文化財展 令和 3 年 12 月 4 日（水）～令和 4 年 1 月 10 日（月祝）	一般 500 円 高大 300 円 小中、市在	3,388 人 1 日あたり 130 人	令和 3 年度指定文化財 2 件のうち、彫刻 木造薬師如来立像（宗教法人證菩提寺蔵）の写真パネル、有形民俗 オシャモジサマ（奉納杓子）（宗教法人本法寺蔵・個人蔵）約 70 点の実物展示、及び、同時開催した「浄土の庭 -称名寺境内国史跡指定 100 年-」展に

会期 38 日 開館日数 26 日	住 65 歳以 上 100 円		ちなみ、平成 8 年度指定文化財より典籍 紺紙金字法華經 八卷（宗教法人法性寺蔵・当館寄託）を展示した。また、令和 3 年度に発掘調査に着手した小机城址の速報展示コーナーを設けた。 関連事業 展示みどころ解説 日時：12/12（日）11:00～、14:00～ 場所：講堂 参加人数：27 人
企画展「浄土の庭―称名寺境内国史跡指定 100 年―」 令和 3 年 12 月 4 日（水）～令和 4 年 1 月 10 日（月祝） 会期 38 日 開館日数 26 日	同上	同上	令和 4 年（2022）が、大正 11 年（1922）年の「称名寺内界」国史跡指定から 100 年、昭和 47 年（1972）の「称名寺境内」追加指定から 50 年の節目の年であることを記念して企画した。鎌倉時代造営時の反橋橋脚の露出展示を中心に迫力ある空間を構成し、称名寺境内の史跡指定と保存の歩み、武家の浄土庭園の代表例である称名寺境内に帰結する浄土信仰の歴史、称名寺を造営した金沢北条氏の盛衰を紹介した。 関連事業 ①展示みどころ解説 日時：12/25（土）11:00～、14:00～ 場所：講堂 参加人数：32 人 ②特別講演会（普及事業と合同） 日時：12/19（日）13:30～16:00 場所：講堂 参加人数：88 人 ③研究講座 各日とも場所：講堂 時間：14:00～ 参加費：500 円 （1）「仏の世界、浄土の美」 講師：福原庸子（横浜市ふるさと歴史財団主任学芸員） 日程：12/26（日） 参加人数：47 人 （2）「鎮魂の祈り」 講師：柳沼千枝（当館主任学芸員） 日程：1/8（土） 参加人数：30 人 令和 3 年度 横浜市指定・登録文化財展と同時開催。
企画展「美術の眼、考古の眼」 令和 4 年 1 月 22 日（土）～3 月 6 日（日）	一般 1,000 円 高大 800 円 小中、市在	3,012 人 1 日あたり 79 人	本事業は、これまでの当館の企画展とは趣旨・内容共に新しい試みの展示であった。具体的には、① 考古学および美術史分野との横断的な展示。② 企画展において現代美術を扱った初めての試み。③ 来館者に展示内容、展示作品・資料について観者の価値観に委ねて感

会期 44 日 開館日数 38 日	住 65 歳以 上 600 円		じること、そこから学びを促す能動的な構成をとった。 という点である。 展示構成は出品作家である間島秀徳、松山賢、薬王寺太一の 3 氏の作品の中に市域出土の縄文土器を配置し展示ルートを強制しない自由導線とした。結果、アンケートや SNS において「露出展示である」「解説が少なく自由に見ることができる」といった意見もみることができたことから、本展の趣旨のみをとるならば一定の評価をすることができたと考える。さらに、従来の来客層以外に本展では、若者の来館も多くみられ SNS やプレス配信会社を利用した広報活動の一つの成果ととることができた。 本展は、単に美術と考古のコラボレーション展示とならないよう、これまで、当館が培ってきた考古分野の調査研究に基づく出陳資料の選定と横浜にゆかりある作家と、それらを大局的にみることができるよう展示趣旨にかなった作家に出品依頼し美術作品と考古資料が共にその魅力十二分発揮できるよう心掛けたことで、モノの見方に対する新たな方向性を提示するまたとない機会となったと考えることができた。 図録 販売 147 冊 関連事業 ①ギャラリートーク（担当学芸員および出品作家による展示解説） 場所：横浜市歴史博物館エントランス（1/30、2/5、2/19）・企画展示室（2/12、2/27、3/5） 時間：各回 14：00～（40～50 分程度） 日程および参加人数：1/30(土)37 人、2/5(土)40 人、2/12(土)14 人、2/19(土)27 人、2/27(土)35 人、3/5(土)29 人 合計 182 人 ②出品作家による公開制作 場所：博物館 1 階エントランス （1）松山賢 日程：1/22(土)、1/23(日)、1/29(土)、1/30(日)、2/1(火)、2/5(土)、2/6(日)、2/8(火)、2/9(水)、2/12(土)、2/13(日)、2/18(金)、2/19(土)、2/20(日)、2/27(日)、時間：10：00～17：00
------------------------------	----------------------------	--	--

			(2) 薬王寺太一 日程：1/30(日)、2/5(土)、2/19(土)、2/20(日) 時間：10:00～17:00 参加費：無料〔参加は来館者による自由見学〕 ③出品作家による野焼き 日時：2/26(土) 9時～16時 場所：大塚・最勝土遺跡公園 参加費：無料〔自由見学〕 ④映画「縄文にハマる人々」 映画上映後に本作監督・山岡信貴氏と担当学芸員によるトーク 日時：2/20(土) 13:00 開場、13:30 分開演、トーク：15:20～16:00 場所：横浜市歴史博物館 講堂 参加人数：73 人 ⑤ナイトミュージアム＋ミュージック “夜の音楽博物館” 日時：2/26 日(土) 開場：17:00、開演：17:30 会場：横浜市歴史博物館講堂、企画展示室、常設展示室 スタディサロン 参加費：4,000 円 参加人数：76 人 アーカイブ配信期間：3/6(日)～4/10(日) 参加費：2,000 円 参加人数：31 人
特別展「みんなでつなげる鉄道 150 年—鉄道発祥の地よこはまと沿線の移り変わり—」 令和 4 年 3 月 19 日(土)～(開催中) 令和 3 年度開催日数 11 日	一般 1,200 円 高大 1,000 円 小中、市在住 65 歳以上 500 円	—	令和 4 年(2022)は、新橋と横浜の間を結ぶ鉄道が開業してから 150 周年の節目の年にあたる。この年に際し、横浜にかかわる鉄道各社の歩みを展覧会や多くの関連事業を通じて紹介し、各社の鉄道利用者はもとより、鉄道愛好家や広く横浜市民に対し、ふるさと横浜の発展を屋台骨となって支えてきた鉄道の歴史の奥深さや新たな発見を伝える展示を行っている(令和 4 年 9 月 25 日まで)。



企画展「横浜の大名」展示会場風景



企画展「美術の眼、考古の眼」展示会場風景

(2) 企画展示室観覧者の推移

	有料観覧者（人）					無料観覧者 （人）	合計 （人）	前年比	開催 日数	1日平均 入館者(人)
	大人	シニア	高大	小中	計					
3年度	8,808	4,638	630	1,146	15,222	13,084	28,306	97.2%	245日	116
2年度	11,973	6,202	589	779	19,543	9,571	29,114	96.7%	228日	128
元年度	3,559	—	375	1,892	5,826	24,300	30,126	48.4%	94日	320

5 企画普及事業（定款第4条第1項第1号②）

市民に横浜の歴史をより身近で興味深く感じてもらう各種の歴史講座や体験学習、また市民や地域と連携したさまざまな事業について、オンライン等、新型コロナウイルス感染症対策を踏まえて取り組みました。またスタディサロンを活用した落語の怪談話など、新たな試みも行いました。

(1) 歴史講座等の開催

講座名称/開催日	参加者数	事業内容
はじめて触れる民俗学 5/7(金)～6/4(金) 毎週金曜日 全5回	6人	横浜市域の資料などをもとに、民俗学のものの見方や調べ方を解説する初心者向け講座を開催した。コロナ禍に対応し、在宅でも参加できるオンライン講座とした。 参加料：4,000円
ナイトミュージアム 博物館 De 怪談ばなし 8/14(土)	67人	閉館後の博物館と遺跡公園を探検し、普段とは異なる博物館の魅力を知ってもらう講座。 ・落語家の三遊亭楽生氏、三遊亭朝橘氏による怪談話。 会場：常設展示室スタディサロン 参加料：椅子あり 2,000円 椅子なし 1,000円
ナイトミュージアム 夜の博物館探検 8/21(土)	14人	閉館後の博物館を探検し、普段とは異なる博物館の魅力を知ってもらう講座。 ・チボリ兄弟舎の紙芝居 ・夜の常設展示室探検（間違い探し） 会場：講堂、常設展示室

		参加料：一般 1,000 円 中学生以下 600 円
横浜ゆかりの中世文書を読む 8/20(金)～9/17(金) 毎週金曜日 全 5 回	15 人	横浜の歴史にゆかりのある中世文書を読み、解説する歴史講座を開催した。民俗学の講座同様に、在宅でも参加できるオンライン講座とした。 参加料：5,000 円
特別講演会 12/19 (日)	88 人	年に一度、博物館の開館日 (1/31) を記念し、各界の一流の専門家を迎えて行う特別講演会を実施した。今年度は、称名寺境内国史跡指定 100 年を冠し、企画展「浄土の庭」の関連企画も兼ねて、12 月に開催した。 演題および講師： 「称名寺境内と記念物 100 年」佐藤信 (当館館長) 「称名寺庭園・金沢文庫・足利学校」五味文彦 (当財団代表理事) 会場：講堂 参加料 1,000 円
はじめての古文書オンライン 1/14(金)～3/4(金) 毎週金曜日 全 8 回	31 人	横浜市域の資料を用いた、初心者向けの古文書入門講座。民俗学・中世文書講座同様に、オンライン講座として開催した。卒業生 10 名が、OB 会「横浜古文書を読む会」に加入した。 参加料：5,000 円
実験考古学講座 「縄文土器づくり」 2/5(土)～3/20(日) 全 4 回	7 人	実験考古学的な視点から港北ニュータウン出土の縄文土器をモデルにした土器づくり講座を行った。 会場：工房・遺跡公園体験広場 参加料：5,000 円
横浜さいかちの会 15 周年記念連続講座 (共催) 6/30、7/28、9/29 (水)	6/30 50 人 7/28 41 人 9/29 40 人	横浜さいかちの会に共催して、連続講座を開催した。 テーマ「『貞観儀式』から読み解く大嘗祭」 講師：柳沼千枝 (当館学芸員) 会場：講堂 参加料：無料
横浜歴博もりあげ隊 歴史講演会 (共催) 9/25 (土)	88 人	横浜歴博もりあげ隊に共催して、歴史講演会を開催した。 演題「天孫降臨神話と『国体の本義』」 講師：保立道久氏 (東京大学名誉教授) 会場：講堂 参加料：500 円
横浜古文書を読む会 特別講座 (共催) 3/18 (金)	78 人	横浜古文書を読む会に共催して、特別講座を開催した。 演題：「襲撃する幕末浪士—横浜を警護せよ—」 講師：神谷大介氏 (横浜開港資料館) 会場：講堂 参加料：無料 ※当初 8 月 20 日 (金) 予定だったが、コロナ流行のため延期。
講師派遣		各区や地域の郷土史団体の講座・講演会等に職員を派遣した。 7/9 (金)「地誌に見る青葉のあゆみ歴史探訪 2021 仏像の種類と横浜の仏像」青葉区郷土史の会

		10/22 (金)「まち歩きボランティアガイド養成講座 横浜のまちの変遷～庶民から見た幕末の神奈川宿」横浜ボランティアガイド協議会 11/27 (土)「郷土史講演会 絵画・地誌資料に見る“神奈川世界”」横浜市神奈川図書館 (新型コロナ流行のため中止) 12/24 (金)「横浜の大名一米倉家の幕末維新」朝日カルチャーセンター横浜 2/8 (火)「かがやきクラブ都筑第 14 回歴史講座」都筑区老人クラブ連合会 (新型コロナ流行のため中止) 2/9 (水)「学んで歩いて、初めて触れる青葉のあゆみ 2021 横浜の弥生時代」青葉区郷土史の会 (新型コロナ流行のため次年度に延期) 2/12 (土)「歴史講座」エンジョイ荏田塾たけのこクラブ 3/6 (日)「蒔田の吉良氏と地域の歴史」南区郷土の歴史研究会 3/9 (水)「幕末の都筑の村々」横浜市加賀原地域ケアプラザ
--	--	---

(2) 体験学習の実施

会場/開催日	参加者数	参加料	事業内容
当日参加型れきし工房 まがたま (滑石) (6 日 12 回)	55 人	滑石 白 400 円 滑石 ピンク 450 円	博物館 1 階のミュージアムショップでオリジナルものづくりキットを購入し、体験学習室で活動支援ボランティアのサポートを受けながら、まがたまづくりの体験ができる事業。 感染対策をしつつ安全に実施するため、日時限定で実施した。 5/1 (土) 7 人 7/17 (土) 9 人 5/2 (日) 10 人 7/18 (日) 10 人 6/20 (日) 9 人 8/29 (日) 10 人 参加者合計 55 人 会場：体験学習室
事前申込れきし工房 (年度通算 3 日 5 回)	48 人	各プログラム で異なる	小学生から大人までを対象に、楽しみながら歴史に触れるワークショップを遺跡公園内の工房にて開催した。今年度は万祝染、土偶づくりを開催した。 万祝染 8/7 (土) 10 人 8/8 (日) 21 人 参加料：1,500 円 土偶づくり 10/24 (日) 17 人 (11/14 野焼き) 参加料：1,000 円

体験広場 野焼き		無料	横浜縄文土器づくりの会と協働で、会の事業として制作した土器等の野焼きを行い、市民に公開した。 5/29(土)、11/14(土)、3/20(日)
----------	--	----	--

(3) 集客イベント等

項 目	開催日	参加者数	事 業 内 容
ラストサタデープログラム おもしろいぞ！紙芝居	毎月最終土曜日 (12日72回)	858人	当館が管理している横浜市指定有形民俗文化財の街頭紙芝居を活用し、複製の実演を行った。
ラストサタデープログラム バックヤードツアー	原則として 奇数月の 最終土曜日 (5日5回)	24人	学芸員の案内で博物館のバックヤードを見学するとともに、実物資料を間近で見たり触れたりするツアーを開催した。新型コロナウイルス流行により、9月25日は中止とした。 7/31(土) 10人 1/28(土) 4人 9/25(土) 中止 3/26(土) 7人 11/27(土) 3人
チボリ兄弟舎紙芝居	8/21(土)・22(日) (2日6回)	98人	夏休み期間に、チボリ兄弟舎によるオリジナル紙芝居を上演した。



ナイトミュージアム 博物館 De 怪談ばなし



おもしろいぞ！紙芝居

(4) 地域や多様な組織との連携（共催事業、協力事業、協賛事業、後援事業、受託事業等）

項 目	開催日	事 業 内 容
(公財)かながわ考古学財団による出土品等展示会・発掘調査成果発表会	6/15～7/4・ 7/3	令和2年度に(公財)かながわ考古学財団が、発掘調査を実施した遺跡の出土品等の展示会を当館常設展示室スタディサロンで開催した。また講堂では発掘調査成果発表会を行い、神奈川県内における考古学の最新情報を広く市民へ公開

		した。特に伊勢原市西富岡・向畑遺跡の埋没林は、縄文時代後期の植生・景観を復元するにあたり、国内でも大変貴重な事例として紹介できた。 https://www.kaf.or.jp/2021/05/21/seikahappyoutenji-2-2/
ドキュメンタリー映画「スズさん」上映会	11/14（日）	文化交流サロン～For our Tsuzuki との共催事業として、昭和の家庭風景を収めたドキュメンタリー映画「スズさん～昭和の家事と家族の物語～」を上映した。あわせて「スズさん」のイラストを描いた高橋美江氏の原画展を開催した。 場所：講堂 時間：14:00～16:00 参加費：無料 参加人数：90人 原画展会期：11/14（日）～11/23（火祝） 場所：エントランスホール
関家住宅の公開	11/27（土）	横浜市教育委員会生涯学習文化財課に協力し、国指定重要文化財「関家住宅」の公開を行った。当館学芸員および横浜都市発展記念館調査研究員が観覧者へ解説を行った。
お城 EXP02021 への参画	12/18（土）～19（日）	お城エキスポ実行委員会が主催した「お城 EXP02021」で埋蔵文化財センターと協力し、発掘調査成果を含めた横浜市中世城郭のパネル展示や御城印の販売などを行った。
ナイトミュージアム＋ミュージック“夜の音楽博物館”	2/26日（土） ※アーカイブ配信期間 3/6（日）～4/10（日）	〈よこはま地域文化遺産デビュー・活用事業〉 〈企画展「美術の眼、考古の眼」関連事業〉 博物館内の講堂・企画展示室・常設展示室スタディサロンの各場所で、ジャズ・チェロ・クラシックギターの演奏を行い、博物館の空間と音楽、ジャズとクラシックなどのコラボレーションにより、いつもと違った博物館を体験するコンサートを実施した。コロナ禍であることを考慮し、アーカイブ配信も行った。 出演者：石崎忍（サクソ） 井上銘（ギター） 清水唯史（チェロ） 河野明敏（チェロ） 磯野鉄雄（クラシックギター） 参加人数：76人 アーカイブ配信参加人数：31人
都筑図書館共催展示及び講座	2/19（土）～18（金）	都筑図書館と連携し、区内の民家をテーマにした展示と講座を都筑図書館で開催した。講座については感染症対策のため実施を対面から横浜市公式 YouTube チャンネルでのアーカイブ配信（3/4～3/18）に変更し、300回余りの視聴を得た。

- ・このほか、神奈川県博物館協会、神奈川県歴史資料取扱機関連絡協議会、横浜郷土史団体連絡協議会に職員を派遣し、定例の会議への参加、研修会等の開催などに協力した。



「スズさん」上映会（講堂）



お城 EXPO 設営の様子

（５）かやぶき屋根プロジェクト

大塚・歳勝土遺跡公園内にある竪穴住居について、定期的・長期的なメンテナンスを行うため、「材料である茅の確保から自分たちでできる修繕まで」を目標として平成 29 年度から事業を開始した。平成 30 年度からは文化庁の助成金を受け、実施してきた。

令和 3 年度は、「よこはま縁むすび講中」の活動のひとつとして以下の事業を実施した。

項 目	実施日	参加者数	事 業 内 容
茅束製作	7 月 18 日	6 名	大塚遺跡での修繕
茅束製作	8 月 28 日	4 名	茅束製作
茅束製作	9 月 25 日	4 名	茅束製作・取材対応
復元建物の修繕	10 月 30 日	2 名	大塚遺跡での修繕・取材対応
復元建物の修繕	11 月 20 日	4 名	大塚遺跡での修繕
朝霧高原茅場で茅刈り	12 月 11 日	3 名	朝霧高原で茅刈りを実施した。
復元建物の修繕	1 月 23 日	3 名	大塚遺跡での清掃・修繕
シンポジウムの実施	2 月 6 日		～地域とつながる、地域がつながる～と題してシンポジウムを配信で実施した。

（６）ボランティアの活動支援

項 目	事 業 内 容
展示解説ボランティア	市民ボランティアによる小中学校団体及び一般来館者への、常設展示室、大塚・歳勝土遺跡公園、旧長沢家住宅の無料解説ガイドは、2 度目の緊急事態宣言の終了後、3/23 よりマスク着用・手指消毒の他、受付テーブルの飛沫防止シートの設置や、フェイスシールドの配布、マイク機器の消毒など、コロナ対策をした上で、活動を再開した。学校団体へのガイドは、一日一校を原則として可能

	な限り小グループに分けて対応をした。 ①ガイド登録者数：64 人 ②基本ガイド時間 遺跡公園 小学校 6 年団体 約 45 分間 常設展 見学者の要望に応じて実施
展示解説ボランティアの募集	6 年ぶりに展示解説ボランティアの新人募集を行った。募集期間は 8/1～9/30、61 名応募。10/16 に応募者説明会を実施し 48 名の参加があった。研修は 10/30～12/18 の期間に全 6 回の座学および見学研修を実施し、2022 年 1/18～2/27 には実際の解説ガイドを体験する実地研修を実施し、講師は各曜日の現役ボランティアが対応した。現役ボランティアへの実地研修の説明は 12/9 に実施した。3/12 実施のボランティア総会を以て研修終了とし、最終的に 35 名の新人ボランティアの登録があった。
活動支援ボランティア	昨年度に引き続き、今年度は感染対策をしつつ安全に実施する当日参加型れきし工房の補助に協力をいただいた。 また 3 月からは、鉄道展の H0 ゲージ運転および監視（於：スタディサロン）にご協力いただいている（継続中）。 ①登録者数：43 人 ②活動実績 ・れきし工房 まがたま（滑石） 5/1（土） 4 人 7/17（土） 4 人 5/2（日） 4 人 7/18（日） 3 人 6/20（日） 4 人 8/29（日） 4 人 ・横浜市ろう特別支援学校 まがたま（滑石） 11/25（木） 3 人 ・鉄道展 H0 ゲージ運転および監視 3/23（水）～3/31（木）のうち、火曜日～金曜日 6 日間 のべ 22 人（見学者 524 人） 合計 48 人
ボランティア総会の実施	展示解説ボランティアについては、コロナ禍により例年は上半期終了後に実施するチーフ会が実施できないため、コロナ禍の中でのボランティア活動にかかわるアンケートを実施した。7/9 を〆切とし集計結果をボランティア内に公開することで意見や疑問・要望などを共有化した。展示解説ボランティアおよび活動支援ボランティアの合同のボランティア総会は 3/12 に実施し、84 名の参加があった。
ボランティア研修の実施	今年度は「遺跡公園の自然に親しむ」と題して 5/7・5/12 の 2 回に分けて、展示解説ボランティアおよび活動支援ボランティア合同の研修を実施した。参加者はのべ 52 名。また展示解説ボランティアを対象としたタイトル「常設展示室の舞台を歩く—古代—」座学研修を 5/25 に実施した。参加者は 51 名。



ボランティア研修（遺跡公園）



ボランティア総会（講堂）

展示解説ボランティア活動実績

項 目		令和3年度		令和2年度		令和元年度	
		遺跡	常設	遺跡	常設	遺跡	常設
活動実績	ガイド実施日数（日）	292	305	88	130	250	106
	解説回数（回）	458	287	169	145	891	131
	1日平均解説回数（回）	1.6	0.9	2.6	1.1	3.22	1.25
	参加者数（人）	5,206	743	1,873	342	19,605	328
	団体対応（件）	61	1	20	1	215	2
	団体のうち学校数（校）	52	0	17	0	194	0

（7）学校連携事業の実施

令和2年度に引き続き、今年度も、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から学校団体見学の受け入れを制限したが、人数的に可能な場合は複数校を受け入れるなど、弾力的な対応を行った。小学校4年の「吉田新田」や小学校3年の「昔のくらし」の訪問授業、金沢区から委託を受けた訪問授業は引き続き実施した。また今年度は、東海大学との協働による文化財資料の教育活用事業も新たに実施した。

事業名／開催日	事業内容等
6年生向け訪問授業 延べ39校 3,293人 ※万騎が原小は2日にわたって実施	さちが丘小 105人、二つ橋小 79人、中川西小 95人、 新治小 44人、霧が丘学園 107人、箕輪小 78人、 新石川小 93人、西富岡小 102人、斎藤分小 38人、 青葉台小 120人、阿久和小 18人、下末吉小 27人、 奈良小 101人、浅間台小 50人、帷子小 54人、 下和泉小 89人、美しが丘小 82人、山下みどり台小 46人、 西寺尾第二小 85人、日吉台小 71人、荏田小 59人、 茅ヶ崎台小 106人、万騎が原小 22人、万騎が原小 22人、 永野小 108人、元石川小 63人、師岡小 153人、

	西寺尾小 60 人、品濃小 151 人、森の台小 147 人、 北綱島小 127 人、鎌倉御成小 100 人、星川小 55 人、 藤沢滝の沢小 107 人、芹が谷南小 57 人、 大田区南六郷小 70 人、都田西小 196 人、東希望が丘小 110 人、 笹野台小 96 人
「吉田新田の開発」 4 年生向け訪問授業 延べ 24 校 2,081 人 ※緑園小は 2 回実施	さちが丘小 107 人、西寺尾第二小 111 人、日限山小 78 人、 能見台小 74 人、藤ノ木小 100 人、品濃小 130 人、 葛野小 81 人、荏田小 46 人、豊岡小 122 人、 中和田南小 47 人、北綱島小 106 人、小机小 87 人、 つづきの丘小 50 人、緑園東小① 58 人、宮谷小 116 人、 川和小 66 人、緑園東小② 58 人、芹が谷小 50 人、 馬場小 123 人、浦島小 99 人、港南台第一小 107 人、 荏田南小 107 人、星川小 70 人、綱島小 88 人
「昔の暮らしと市の広がり」 3 年生向け訪問授業 1 校 110 人	市ヶ尾小 110 人(鉄小郷土資料室にて実施)
開港記念日講話 2 校 1,174 人	新吉田第二小 484 人、中和田小 690 人
年中行事訪問授業	1 校から相談があるも、中止となった。
学校資料室への訪問授業等	今年度は依頼がなかったため、実施せず。
金沢区委託 「むかし体験」訪問歴史授業 7 校 505 人	釜利谷南小 54 人、西柴小 91 人、釜利谷東小 68 人、 六浦南小 73 人(於大道小)、能見台南小 65 人、 西富岡小 105 人、並木中央小 49 人
茅ヶ崎台小学校 5 年 1 組総合学習 テーマ「茅ヶ崎城」への協力	7/16 スタディサロンで茅ヶ崎城に関する児童が質問(児童 31 名)。 10/13 担任の中川先生とオンライン打合せ。 10/14 5 年 1 組の児童の質問にオンラインで回答。 1/11 茅ヶ崎城に関する児童の質問にメールで答える。 茅ヶ崎城愛護会及び都筑をガイドする会と学校との調整を実施。 1/19 茅ヶ崎城愛護会の清掃活動に児童が参加。 3/11 5 年 1 組総合学習発表会(児童 31 名)を実施。
出張土器づくり指導	令和 3 年度は依頼がなかったため、実施せず。
教職員対象の研修	市教育委員会の博物館活用研修は、副館長を講師として 1 回実施した。 新型コロナウイルス感染症流行により、密を防ぐために「吉田新田の開発」研修会は見合わせた。 このほか、各学校からの要請により個々の要請に応じた研修会を行った。 ・歴史学習 6 年

	都田西小 5 人 ・吉田新田の開発 4 年 子安小 5 人、北山田小 2 人、荏田小 2 人、中和田南小 2 人、芹が谷小 2 人、緑園東小 2 人、馬場小① 4 人、川和小① 2 人、川和小② 2 人、川和小③ 2 人、飯島小① 1 人、馬場小② 1 人、飯島小② 1 人、星川小 2 人 延べ 15 校 35 人
中学校社会科研究会	中学校社会科作品展は令和 3 年 12 月 11 日（土）から令和 4 年 1 月 10 日（月）まで常設展示室内スタディサロンで開催したが、新型コロナウイルス感染症拡大のため中学校社会科研究発表会の開催は中止となった。
神奈川県高等学校文化連盟	神奈川県高等学校文化連盟との共催で、神奈川県社会科研究発表大会を実施し、審査員を派遣した。大会は新型コロナウイルス感染症流行のため、オンラインによる開催となった。 大会：11/14（日） 審査員が港北高校に集合し、リモート開催。
東海大学と博物館の協働による文化財資料の教育活用事業による博物館実習	博物館が整理を進めている伊藤宏見旧蔵資料群の掛け軸を対象とし資料整理の実習を実施した。当該資料群の整理を通して、学生が通常の博物館実習では得られない現場での実務経験を積み、文化財資料の活用事業に関与することで、地域博物館の文化創造や地域社会における文化財資料の活用に係る新たな「学びの場」の創出をめざす活動を実施した。同様に東海大学教諭資格センターは横浜市歴史博物館に係る文化財資料（伊藤宏見旧蔵資料群）の整理を通して、学生が通常の博物館実習では得られない現場での実務経験を積み、また一市民として文化財資料の保存活用事業に関与することで、大学と地域博物館の協働による新たな「学びの場」創出をめざすことを目的とした。実施日は 7 月 10 日（土）〔博物館事前研修〕8 月 25 日（水）、10 月 12 日（火）、19 日（火）〔資料整理実習〕、2022 年 1 月 25 日（火）〔振り返り〕
横浜英和学院 長井記念歴史展示室新設の助言・監修	9 月以来、月 1 回から 2 回、打ち合わせに参加し、展示室の設備についての助言や展示資料の選定などの監修を行った。
学校団体の博物館見学申込システムの活用	令和 3 年度も引き続き新型コロナウイルス感染症拡大防止のため 1 日あたりの受け入れ校数の基準を設けていたが、その基準内で可能な限り学校団体を受け入れられるよう博物館見学申込システムを活用した。

項 目	令和3年度	令和2年度	令和元年度
学 校 数 (校)	111	47	278

うち小・中学校利用数

項 目	令和3年度	令和2年度	令和元年度
学校数 (校)	86	46	262
児童・生徒数 (人)	6,480	3,791	24,440

(8) 関連団体との協働事業

市民と共に歩む博物館を目指して、博物館に集う関連団体と博物館のあり方を検討しつつ、協働事業を実施した。当館主催の講座OB会である「横浜古文書を読む会」、「横浜縄文土器作りの会」、「横浜古代史料を読む会」、ガイドボランティアのOB会である「横浜さいかちの会」の4団体、また博物館の支援、博物館との協働を目的に結成された「横浜歴博もりあげ隊」は、博物館と連携して定期的な活動を行っている。今年度も昨年度同様、コロナ禍の影響で諸団体とも活動が制限されたが、ウィズコロナ、アフターコロナを見据えた活動を継続した。

項 目	事 業 内 容
「横浜古文書を読む会」との協働	・原則として毎月2回の講座の開催 新型コロナウイルス流行により、9月は中止。 ・有志による「下読み会」の実施。 コロナ禍に対応し、オンライン会議システムを利用し、リモートで実施。武州金沢藩の目付日記（明治3年後半）の解説を行い、紀要にて成果を報告した。 ・特別講座の実施 3/18（金）当館講堂 講師：神谷大介氏（横浜開港資料館） 演題：「襲撃する幕末浪士—横浜を警護せよ—」 参加者 78人 ※当初8月20日（金）予定だったが、コロナ流行のため延期。
「横浜古代史料を読む会」との協働	・原則として月1回の『続日本紀』講読講座の開催 4/14、5/18、6/9、7/21、8/11、8/24、9/28、11/16、12/22、1/18、3/29 ・8/29（日）特別講座の実施 講師：平野卓司氏（日本大学教授） ・12/22（水）称名寺展みどころ解説実施 講師：柳沼千枝（当館学芸員）
「横浜縄文土器づくりの会」との協働	・5/8 調査・研究用の土器製作 ・10/24 れきし工房土偶づくり ・2/5・19・20、3/20 実験講座土器づくり教室 ・5/29、11/14、3/20 土器づくりの会制作土器の野焼き
「横浜さいかちの会」との協働	・さいかち古代史料講読講座（『日本書紀』購読）

	4/20、6/15、8/17、9/28、11/30、12/21、2/15、3/15 ・横浜さいかちの会 15 周年記念事業 ①記念講演会（展示解説ボランティア研修を兼ねる） 5/25（火）当館講堂 講師：鈴木靖民氏（当館前館長）「古代神奈川の仏教・祭祀・信仰—遺跡と文字資料を中心に」 参加者 53 人 ②記念講座『『貞観儀式』から読み解く大嘗祭』 6/30、7/28、9/29、1/19（水） 当館研修室 講師：柳沼千枝（当館学芸員） 参加者 55 人 ・史蹟見学会「小机城址を中心に中世よこはまを訪ねる」 3/9（水） 講師：阿諏訪青美（当館学芸員） 参加者 18 人
「横浜歴博もりあげ隊」との協働	・講演会の実施 9/25（土）当館講堂 講師：保立道久氏（東京大学名誉教授）「天孫降臨神話と『国体の本義』」 参加者 88 人 ・つづき人交流フェスタへの参加 3/22（火）～3/27（日） 都筑区役所 博物館の紹介展示、チラシ配布など

（9）実習・研修の受け入れ

博物館実習は例年に比べて日数を減らし、感染症対策を徹底しながら実施した。中学校の職場体験については申込がなかった。

項 目	事 業 内 容
博物館館務実習の受け入れ	博物館学芸員資格の取得を目指す「博物館実習」受講生を受け入れ、指導を行った。 10 名 6 日間（7～10 月）
フェリス女学院大学インターンシップの受け入れ	フェリス女学院大学キャリア実習として学生を 1 名受け入れ、実習指導を行った。 20 日間（2/1～3/11）
県立高校インターンシップの受け入れ	博物館に興味を持つ高校生を 1 名インターンとして受け入れた。 4 日間（8/3～6）
高校教員 5 年次研修	県立高校教員の 5 年次研修として教員を 1 名受け入れた。 2 日間（8/7・21）

（10）広報広聴

項 目	事 業 内 容
-----	---------

広報	展覧会情報のほか、新型コロナウイルス感染拡大による開館情報・感染防止対策等の広報を行った。 ・各種チケットサービスを利用しての前売券販売による PR ・当館ウェブサイト、SNS による広報、情報発信 ・館外情報サイトへの情報提供 ・広報誌「博物館 NEWS」の発行 ・全国博物館施設、市内公共施設、学校、関係機関に向けた広報 ・マスコミ各社への情報提供 ・リリース配信サービス会社との年間契約による継続的発信 ・博物館近隣の広報案内看板への掲示 ・センター北駅 1 番出口広告掲示板（8 ヶ所）への掲示 ・広報よこはま等の市広報誌への情報掲載 ・新聞・ラジオ・雑誌等マスコミや SNS への有料広告（「KADOKAWA ぶらぶら美術・博物館」ほか） ・ラジオ番組への番組コーナー提供 例年開催の区民まつり、センター北まつりなど地域イベントは中止となった。
市民ニーズの把握	企画展アンケートをウェブフォームで実施
催事申込システムの運用	ワークショップ「れきし工房」や各種講座・講演会、ガイドボランティアの募集等にインターネットを利用した催事申込システムを運用
リーフレット類作成	歴史博物館催し物案内（年 2 回） 貸出施設案内パンフレット 横浜市新規転入者向け案内チラシ

(11) 出版

博物館ニュースは 24p となる合併号を刊行した。資料目録、紀要、調査研究報告については pdf による web 公開に変更した。

項 目	事 業 内 容
出版物発行	横浜市歴史博物館ニュースNo.51・52 合併号 8,000 部作成 横浜市歴史博物館資料目録 第 30 集 PDF データ作成 横浜市歴史博物館紀要 第 26 号 PDF データ作成 横浜市歴史博物館調査研究報告 第 18 号 PDF データ作成

6 よこはま縁むすび講中（定款第 4 条第 1 項第 1 号②）

よこはま縁むすび講中は、当館が事務局となり、文化庁「令和 3 年度地域と共働した博物館創造活動支援事業」の助成を受けて、かつて港北区だった横浜北部 4 区（港北・緑・青葉・都筑）の地域文化遺産をつなぐ取り組みとして実施した。

地域が内包する文化・歴史・自然・産業・商業・公共施設・民間施設などのあらゆるモノ・コトを発信することを目的として、当館が中核館となり、(公財)大倉精神文化研究所、小机城のあるまちを愛する会、みどりアートパーク、横浜市民ギャラリーあざみ野で構成。更に YMBL (横浜メディアビジネス総合研究所)、横浜市交通局、森ノオト、横浜国立大学大原研究室に協力団体として入っていただき、重層的な活動を志した。

項 目	事 業 内 容
かやぶき屋根プロジェクト	横浜市歴史博物館が企画し、7/18 から 1/23 にかけて 7 日の活動日を設け、市民ボランティアとともに大塚遺跡の茅葺建物のメンテナンスや静岡県朝霧高原での茅刈を行った。
小机城ガイドツアー	(公財)大倉精神文化研究所、小机城のあるまちを愛する会が連携し、小机城を理解するガイドツアーを、9/25 小机城コースⅠ、11/14 小机城コースⅡ、11/28 青木城・太田道灌コース、12/12 茅ヶ崎城コース、1/23 蒔田城・太田道灌コースとして開催した。
漫画、アニメ、紙芝居「小机の重政」上映会	(公財)大倉精神文化研究所、小机城のあるまちを愛する会、わがまち港北映像プロジェクトが連携し、10/24 港北区図書館、11/24 城郷・小机地区センター、1/22 港北公会堂で「小机の重政」をテーマとした紙芝居や漫画映像劇、アニメーションを上映した。
青葉区の大山街道を知る	横浜市民ギャラリーあざみ野が企画し、11/13 学び編「大山街道と大山道」、11/27 散策編「大山街道・荏田宿周辺を歩く」を実施した。
山内小学校 5 年生写真と俳句展	横浜市民ギャラリーあざみ野が企画し、山内小学校 5 年生が 2 日間にわたって行った「自分の『大切なもの』をテーマに写真を撮る」ワークショップの成果として、児童の写真と俳句を、10/21-24 に横浜市民ギャラリーあざみ野で展示した。
土遊び 土で絵を描くワークショップ	みどりアートパークが企画し、地域の小中学生 24 名が参加して、緑区等で採取した土、また炭や灰などの身近な自然物を用いて絵を描くワークショップを 8/5 から 11/13 にかけて全 9 回開催した。作品は 12/4-19、1/22-3/6 に、横浜市歴史博物館で展示した。
シンポジウムの実施	令和 4 年 2 月 6 日にシンポジウムを感染症対応のため無観客で開催した。基調講演、本年度の活動報告、クロストーク等の内容は録画して、縁むすび講中 HP で公開した。
広報・情報発信	YMBL との協働により、パンフレットの作成・テレビのスポット CM の放映・HP (http://yokohama-enmusubi.jp/) の運営といった多岐にわたる広報・情報発信活動を推進した。

7 情報事業（定款第 4 条第 1 項第 1 号②）

インターネット等を利用して、文化財・歴史資料及び展示等に関する情報を提供するために、データの入力等を行い、文化財情報の発信に関わる機器類の保守管理を行いました。

項 目	事 業 内 容
収蔵資料等データ入力	図書文献資料等のデータ入力及びインターネット公開を行った。 データ入力件数 2,192 件
映像資料の公開	多言語アプリ「ミュージズナビ」を利用して、常設展示室内で、モバイル端末による横浜の歴史や文化財に関するビデオを公開した。 れきし工房「あじろ編み小物入れ」「勾玉キット かっ石」の作り方動画を作成、YouTube チャンネルにて公開した。 小学校 6 年生の歴史学習に関連して「横浜の遺跡見学 大塚・歳勝土遺跡公園」「横浜の遺跡見学 常設展示室 原始Ⅱ」の動画を作成し、YouTube チャンネルにて公開した。
文化財情報システムの運用・保守	インターネット等による文化財情報の管理・発信や、サーバーならびにグループウェアに関わる機器類の保守管理を行った。
ホームページを利用した博物館情報の発信と市民ニーズの把握	博物館のホームページにより、博物館の展示・催し物・刊行物の広報や、収蔵資料・図書文献資料・市内文化財等の紹介を行った。 アクセス（セッション）数 256,569 件
ツイッター等SNSを利用した博物館の情報発信	ツイッターを利用した博物館展示情報や解説、催し物など多岐にわたる活動情報を発信した。 ツイート数 419、ツイートインプレッション 1,382,167、プロフィールへのアクセス 203,161、フォロワー増 1,084
動画の制作および配信	れきし工房「あじろ編み小物入れ」「勾玉キット かっ石」の作り方動画を作成、YouTube チャンネルにて配信した。 また、小学校向けの遺跡解説動画を 2 本、調査・研究関係の動画を 1 本、よこはま縁むすび講中のシンポジウム動画を 3 本制作し、YouTube チャンネルにて配信した。

8 施設維持事業（定款第 4 条第 1 項第 1 号③）

歴史博物館及び野外施設の維持管理・運営を行いました。昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症対策として、来館者の検温・手指消毒の徹底、定期的な館内消毒、各受付の亚克力板の設置、各種掲示を作成し、日本博物館協会のガイドラインに則り運営しました。

（1）施設改修工事

施設維持と来館者の安全・利便性を確保するため、機械化した有料駐車場に監視カメラの設置工事、常設展示室内歴史劇場の Wi-Fi 配線工事、エントランスホールのコンセント整備工事を実施した。

また令和 5 年度に、長寿命化工事の一環として実施予定の空冷チラー交換工事について、実施設計に協力した。

(2) 来館者対応業務

市民サービスと効率性の向上を図るため、令和2年度に導入したキャッシュレス決済と来館者・受付スタッフの接触機会の低減を目的に導入した日時指定オンラインチケットサービスの運用を引き続き行った。

事業名／開催日	事業内容等
キャッシュレス決済	利用者の利便性向上をさせるため観覧料金の決済手段として現金の他にクレジットカードや交通系 IC カードにも対応出来るレジを導入した。キャッシュレス決済の導入が来館者と受付スタッフの接触機会を低減させ、新型コロナウイルス感染拡大防止対策にもつながった。
日時指定オンラインチケット	文化庁の新型コロナウイルス感染症対策の補助金を活用し導入した日時指定オンラインチケット運用し、来館者の混雑緩和に努めた。

(3) 歴史博物館等の維持管理

管理対象施設等	事業内容
歴史博物館	施設の保守管理、補修・修繕 講堂・研修室の貸出については、新型コロナウイルス感染症対策を実施しながら、利用人数の制限を解除した。 <主な修繕> ・給排水設備 汚水ポンプ交換工事 ・空気調和機 加湿器・ダンパー交換工事 ・空調設備 水冷チラー冷媒漏れ修繕 他

(4) 講堂・研修室利用の推移

項 目		令和3年度	令和2年度	令和元年度
講 堂	利 用 者 数 (人)	4,937	2,527	15,930
	利 用 件 数 (件)	59	33	119
	うち有料貸出件数 (件)	28	29	13
研修室	利 用 者 数 (人)	1,509	368	2,362
	利 用 件 数 (件)	86	39	83
	うち有料貸出件数 (件)	53	25	52

(5) 歴史博物館野外施設入場者の推移

項 目		令和3年度	令和2年度	令和元年度
歴 史 博 物 館 野 外 施 設 (人)		40,242	40,593	52,506
内 訳	大 塚 遺 跡 (人)	39,142	39,057	47,999
	工 房 (人)	1,100	1,536	4,507

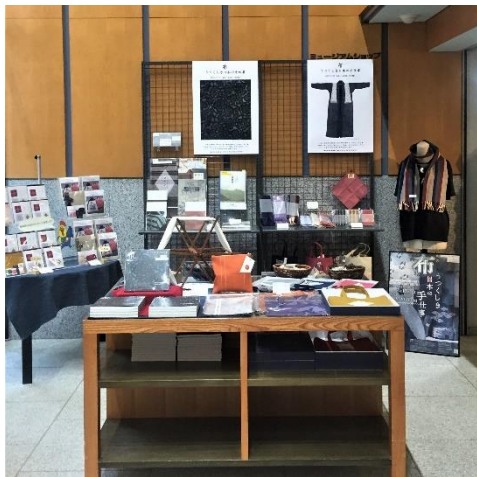
9 収益事業（定款第4条第1項第2号）

ミュージアムショップ、駐車場、館内の自動販売機設置による収益事業を行いました。

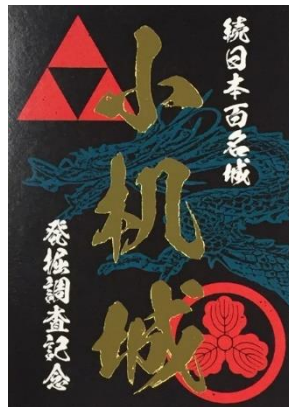
ミュージアムショップでは、企画展ごとに関連コーナーを設置し、各種委託商品を豊富に揃え、観覧の記念となる商品を販売しました。また、収蔵資料をモチーフとしたオリジナル商品を多数開発しました。昨年度開設したオンラインショップでは取扱商品を増やし、セット販売など利用しやすさを工夫しました。駐車場は管理会社への委託を開始し、キャッシュレス対応など利便性の向上を図りました。

（1）ミュージアムショップ

- ・新商品として、御城印小机城発掘調査記念版を1000枚限定で作成し、合計5種の御城印を店頭やオンラインショップのほか、お城EXPOでも販売した。
- ・企画展「横浜の大名」開催時、オリジナルマスキングテープやクリアファイルを作成した。
- ・店頭やオンラインショップで企画展図録などの刊行物のほか、絵葉書、クリアファイル、れきし工房キットなどのオリジナル商品の販売を行った。



企画展「布 うつくしき日本の手仕事」開催時の店頭



御城印小机城発掘調査記念版



オリジナルマスキングテープ3種

（2）駐車場

来館者の利便性を図るべく、歴史博物館の来館者用駐車場を運営した。

近隣の商業施設の増加に伴い利用が減少している状況を改善するため、今年度から駐車場管理会社に委託し、キャッシュレス決済が利用できるコインパーキングとした。これにより費用超過となっていた状況を解消することが出来た。

（3）自動販売機

施設利用者の利便を図るため、交通系ICカード等のキャッシュレス決済に対応した飲料の自動販売機を設置した。

<各事業の推移>

項 目	令和3年度	令和2年度	令和元年度
ミュージアムショップ売上（千円）	14,184	15,805	5,078
自動販売機手数料収入（千円）	64	57	120

事業別評価

事業名称	実施概要	評価
1 資料収集保管事業	資料の寄贈・寄託、購入による資料収集活動を着実に に行い、収集資料の整理・保管・データ入力を進め た。保管業務に関しては、横浜市教育局に移管 された横浜スカーフアーカイブ資料と横浜芝山漆 器屏風を受け入れた。また資料の燻蒸や IPM など、 適切に資料の保全を進めた。	A
2 調査研究事業	基礎資料研究 4 本、テーマ研究 4 本、市民共同研究 3 本、連携調査研究 3 本のほか、令和 4 年度実施予 定企画展の調査や資料の基礎整理を予定通り進め、 調査研究報告では小宮山博史文庫の整理成果と目 録を公開したほか、紀要では調査成果として 3 つの 報告や資料紹介を掲載した。	B
3 常設展事業	感染拡大防止策を徹底して、展示解説ボランティ アによる常設展示室の解説を再開した。また、来 館者自身のスマホやタブレットを利用した 4 か国 語対応の多言語解説アプリや、Q&A（歴史クイ ズ）、市域文化財・歴史関係映像視聴システムを昨 年度に引き続き提供し、デジタルサイネージはプ ログラムを追加して魅力の向上を図った。このほ か、移管された横浜彫刻家具、神奈川考古学財団 の発掘成果展示、「吉田新田」や「ちょっと昔の道 具」といった学校連携展示などのミニ展示のほ か、常設展示室の魅力を活かした落語会やコンサ ートなど多様な取り組みを実施した。	A
4 企画展事業	東日本大震災 10 年を経た東北地方の支援を意識し た御所野縄文博物館と共同開催の「縄文ムラの原 風景」や神奈川大学と共同開催の「布」のほか、 市民と協働して進めた調査研究の成果である「横 浜の大名米倉家の幕末・明治」、国史跡指定 100 年 を迎えた称名寺境内の保護の過程を紹介した「浄 土の庭」と、学術発掘された小机城址の成果を速 報した同時開催の「横浜市指定・登録文化財展」、 市域出土の縄文土器と現代アートのコラボから生 まれた違和感を効果的に提示した「美術の眼、考	S

	古の眼」など、市民の多様な生涯学習のニーズに応える充実した内容の展示を行った。	
5 企画普及事業	感染症対策を徹底しながら多様な事業を展開し、コロナの状況に応じて対面と、オンラインや配信による催しをバランスよく実施した。展示解説ボランティアは新規募集を行い、35 名が新たに登録した。学校連携事業では小学校への訪問授業を始め、総合学習への協力、中社研、高文連、東海大との連携事業などを実施し、実習や研修についても受入を進めた。広報では、各種チケットサービスを利用し、PR を兼ねた前売券販売を新たに試行した。	A
6 よこはま縁結び講座中	本年度から、横浜北部にある地域文化遺産をつなぐ取組として、当館が中核館となり実施した。事業初年度にもかかわらず、各団体のオリジナリティあふれる多彩な事業をそれぞれが緩やかに相互連携しながら展開し、地域の文化遺産を市民につなぐ目的は十二分に達成された。	A
7 情報事業	リアルタイムな情報発信が行える SNS の強みを活かし、ツイッターを利用した博物館展示情報や企画展の展示資料解説、またリアルタイムでの館の活動全般を紹介する情報発信を積極的に行い、HP については的確に情報更新を行った。学校連携を意図した展示解説映像やれきし工房の製作動画などの制作と発信にも取り組んだ。	A
8 施設維持事業	今年度も引き続き、日本博物館協会のガイドラインに則した新型コロナウイルス感染症対策を実施し、来館者が安全に利用できる施設の管理・運営に努めたほか、開館以来 26 年が経過して経年劣化のみられる施設・設備に対し日常の監視保全に努め、安定的な運営を維持できるよう努めた。	A
9 収益事業	ミュージアムショップ事業は、新商品の開発、魅力的な企画展関連商品の取り扱い、オンラインショップの安定的な運営などに取り組み、今期売上は 1400 万円を数えた。駐車場事業は駐車場管理会社に委託するコインパーキングとし、費用超過を解消することが出来た。	A

3 開港資料館事業

令和 3 年度は、文化庁による補助金事業「横浜開港資料館における文化観光拠点計画」が認定を受け、令和 3 年度から 5 年間の事業に着手しました。関内エリアの文化観光拠点施設として機能強化を図っていくために、開港資料館のみならず財団各施設の職員が連携して、16 のプロジェクトの取り組みを始めました。

事業の大きな柱として、旧館の再整備事業に着手し、令和 3 年度は付属棟（旧門番所）の改修工事を実施したほか、旧館の劣化調査および保存改修工事のための保存活用計画を策定しました。設備面では、公衆 Wi-Fi の設置などのインフラ整備を進め、事業面では、開港資料館モニターツアーの実施や、あらたに旧館内に設置する展示の基本計画の策定などをおこないました。

企画展事業では、江戸時代の日英関係をテーマとした企画展「七つの海を越えて」を、二期に分けて実施しました。これまで公開される機会がなかった江戸時代初期の館蔵資料や、海外の機関での新発見資料などを、広く紹介する機会となりました。また外部出版社と連携して展示関連図書『図説日英関係史 1600～1868』を発行し、書店を通じて販路を拡大しました。

資料収集保管事業では、大正時代に横浜市長を務めた渡辺勝三郎関係資料の収集をはじめ、今後のデジタルアーカイブの構築に向けて、浮世絵・地図・古写真等の画像資料のデジタル化を進めました。

調査研究事業では、幕末から明治・大正期の各テーマにもとづいた基礎的調査研究に加えて、企画展示に向けた資料調査・研究をおこない、その成果は当館紀要および館報『開港のひろば』で報告しました。また財団諸施設や外部研究者との連携研究も、予定どおり実施しました。

昨年度に引き続き、横浜セントラルタウンフェスティバル Y162 などの大規模イベントがコロナ禍で中止となり、当館でも例年実施していた開港記念日の無料開館を中止しましたが、引き続き、Twitter や YouTube などのオンラインツールを活用して、直接来館できない方に、展示や資料についての情報を発信しました。秋には、ユーラシア文化館が主催する横浜ユーラシア・スタチュー・ミュージアムの会場として旧館と中庭を提供し、文化財の建物を活かした普及事業を実施しました。

1 資料収集保管事業（定款第 4 条第 1 項第 1 号①）

江戸時代後期から明治・大正にかけての横浜の歴史とその関連資料を収集し、収集資料を良好な状態で保存するために資料の保管を行いました。また、閲覧室での資料公開・コピーサービスにより、資料や研究成果の普及を行いました。

（1）資料の収集・管理・公開

項 目	点 数	事 業 内 容
資料の寄贈・寄託	寄贈 4 件 165 点 寄託 0 件 0 点	主な収集資料：渡辺勝三郎関係資料、中村宇一郎氏収集文書、山尾正斌氏収集資料、伊藤和子氏旧蔵資料
資料の購入	35 件 73 点	主な収集資料：大震災経済史、London Letters Home of Gus Farley Jr. 等
古文書のマイクロ化ほか	10 件	主な複製（マイクロ撮影）資料：鈴木滋家文書、清水直吉家文書、宮本清寛関係文書、都筑郡白根村文書他

資料の分類・整理	約 2, 0 0 0 点	中山家文書を中心に未整理の文書群の分類・整理をおこなった。
閲覧室における資料の公開とコピーサービス	閲覧室利用 7 9 2 人 コピー枚数 1 8, 3 1 6 枚	日本語・外国語新聞複製、図書等の開架資料の公開と、文献・古文書等の閉架資料の出納・公開、コピーサービスを行った。
資料のデジタル化	古写真や古記録など	企画展や閲覧公開に供する資料及び収蔵資料のデジタル化を行った。 主な資料：『横浜開港見聞誌』『米艦渡来記念ノ図』など
	浮世絵・地図・絵葉書 約 2, 5 0 0 点	文化観光拠点計画事業の一環として、デジタルアーカイブの公開に向けて、収蔵資料から浮世絵・地図などの画像資料を選定してデジタル化をおこなった。
コレクション解説動画の制作	解説動画 1 5 本	文化観光拠点計画事業の一環として、企画展で人気の高かったテーマの中から「古絵図をもとに外国人居留地を歩く」「横浜開港かるた」など、館蔵資料を活用した解説動画の制作をおこなった。
複製資料の提供	提供件数 4 4 8 件 1, 4 4 9 点	市民や企業、他の博物館や公共機関、出版社などへの写真資料の提供を行った。
原資料の貸出	貸出件数 1 件 5 点	他の博物館（神奈川県立金沢文庫）へ原資料の貸出を行った。

(2) 資料収集内訳 (R2.4～R3.3)

区 分	購入	複製	寄贈	寄託	合計	累計
行政資料 (点)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	1, 851 (1, 851)
政府資料 (点)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	16, 137 (16, 137)
海外資料 (点)	— (—)	2 (—)	— (—)	— (—)	2 (—)	15, 236 (15, 234)
文書・記録 (点)	— (2)	29 (53)	165 (564)	— (23)	194 (642)	85, 444 (85, 250)
新聞資料 (点)	— (—)	— (7)	— (—)	— (—)	— (7)	9, 955 (9, 955)
絵画・写真等 (点)	— (—)	— (10)	— (33)	— (—)	— (43)	33, 670 (33, 670)
コレクション (点)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	51, 408 (51, 408)
文献資料 (点)	73 (73)	— (—)	— (—)	— (—)	73 (73)	58, 429 (58, 356)
合 計	73 (75)	31 (70)	165 (597)	— (23)	269 (765)	272, 130 (271, 861)

※ () 内は、前年度点数。

(3) 複製資料の提供実績

項 目	令和3年度	令和2年度	令和元年度
出版社（一般書・教科書・雑誌）、放送・テレビ会社、官公庁、横浜市及び横浜市関連機関への提供	448件	460件	479件

（4）閲覧・資料相談・複写サービス利用状況

項 目	令和3年度	令和2年度	令和元年度
閲覧室利用者数（人）	792	535	1,780
複写申込件数（件）	500	365	903
複写枚数（枚）	18,316	8,799	23,525
レファレンス件数（件）	2,048	1,507	1,975

（5）資料の保管

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
環境調査	収蔵資料の汚損の予防のため、害虫の発生状況や館内環境の調査を実施した。5回／年

（6）資料保管施設の管理

保管施設	保 管 資 料
開港資料館収蔵庫（310 m ² ）	文書記録、画像資料、個人文庫、文献等の収蔵と管理を行った。
大黒埠頭倉庫、シルクセンター他	器物資料、文献資料などの収蔵と管理を行った。

2 調査研究事業（定款第4条第1項第1号①）

江戸時代後期から明治・大正にかけての横浜の歴史とその関連資料について、各テーマに基づいた調査研究を実施しました。また財団諸施設との連携研究事業、外部研究者との共同研究事業も継続して実施しました。

（1）基礎的調査研究

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
建築・土木遺構に基づいた横浜の都市形成に関する研究	①館蔵建築資料からイギリス総領事館関係図面および横浜開港資料館建設時の設計図面81点の確認調査をおこない、将来的なWeb公開に向けてデジタル化作業を実施した。 ②昭和期のイギリス総領事館の写真資料に関する調査をおこない、その成果をふまえて、『開港のひろば』第153号に「イギリス総領事館・昭和の半世紀」を執筆した。 ③南区に現存する井上良斎窯跡について、関係資料の収集と登り窯使用煉瓦の現地確認調査をおこなった。
横浜近代欧米関係史	①ヒアリング調査の成果として、当館紀要第38号に「インタビュー記録 太

	田宇之助父娘と中国一太田宇之助長女、縫田曄子氏に聞く」を掲載した。 ②外部機関（東京大学史料編纂所）とのイギリス外交文書他のデータ検索閲覧システム連携事業を継続実施した。将来的なフランス外交文書館所蔵文書の公開に向けて、当館所蔵マイクロフィルムのデジタル化作業をおこなった。 ③館蔵海外関係資料の現状調査をおこなった。
横浜幕末維新时期社会・生活史	①近世期全般にわたる日本社会とイギリスとの関わりを示す原資料を当館所蔵資料からリストアップ、調査研究をおこない、企画展「七つの海を越えて「鎖国」下の日本とイギリス／開国前後の日本とイギリス」、および関連出版物『図説日英関係史 1600～1868』、『開港のひろば』151～153号で報告した。 ②イギリスの資料所蔵機関（北アイルランド公文書館）が所蔵する幕末期日本・横浜関係の資料分析を実施し、『開港のひろば』152号に「1864年、イギリスからのP&O汽船の旅」と題して報告した。 ③横浜幕末維新史研究会と共同し、幕末維新时期横浜に関わる論考のリストアップ、幕末期横浜・開港都市に関わる最新の研究成果を収集した。
横浜開港資料館のアーカイブ機能に関する研究	①HPでの公開に向けて古文書目録のデータ入力およびPDF化を進めた。 ②館蔵資料の保存・整理状況を体系的に把握し、効率的なアーカイブ機能の構築方法について検討した。 ③デジタルアーカイブによる資料公開に向けて、資料に応じたメタデータの記載方法、情報公開機能、管理システム、効果的な活用事例等に関する聞き取り調査を行った。 ④門倉保茂家文書の整理作業を進め、聞き取り調査を行った。 ⑤横浜開港資料館所蔵の医療関係資料の確認、目録化を進めた。
横浜近現代政治社会史	①2025年開催予定の戦後80年記念企画展示に向け、開港資料館が所蔵する今井清一文庫をはじめとする戦時資料の調査を行った。 ②開港資料館が所蔵する近代スポーツ関連の資料を調査し、その成果を企画展「スポーツの祭典と横浜」（会場：都市発展記念館）およびミニ展示「日本最古のスポーツクラブ YC&AC」（会場：開港資料館）で公開した。 ③中山恒三郎家資料について共同研究会とともに整理作業を進めた。また、京浜地域の移住者に関する調査研究を進めた。

（2）財団諸施設との連携研究事業

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
戦中・戦後期の都市横浜に関する連携研究	戦争の時代から戦災復興を経て、高度経済成長への至る昭和期横浜の歴史を多角的に明らかにする調査研究事業の実施。 開港資料館所蔵の戦時資料の調査を行った。また、都市発展記念館・市史資料室所蔵の戦後混乱期における児童養護関係資料の調査・研究を行い、『横浜都市発展記念館紀要』No. 17に「戦後横浜における戦争孤児・『浮浪児』の実態—日本厚生団ボーイズホーム資料群の分析より—」、「戦後横浜

	の「混血孤児」問題と聖母愛児園の活動」として報告した。 ＊都市発展記念館・市史資料室との連携研究事業
昭和期の横浜の都市生活に関する調査研究	戦後期横浜の市民生活の実態を明らかにするため、磯子区の時計店に勤務していた下平政熙氏の直筆日記（都市発展記念館蔵）の昭和戦後期（昭和21～26年）の読解・分析をおこない、『横浜都市発展記念館紀要』No.17に「戦後混乱期横浜の都市生活誌」として報告した。 ＊都市発展記念館との連携研究事業
都市横浜「歴史空間」復原への調査研究事業	都市横浜の歴史空間を復元するため、関内地区の幕末～明治初期の古地図の描き起こし作業をおこなった。また、1850年代の横浜周辺の絵図を分析し、『横浜市歴史博物館紀要』第26号に「〈資料紹介〉〔神奈川より金沢まで沿岸図〕について」として報告した。 ＊都市発展記念館・神奈川県立歴史博物館との連携研究事業
小机地域(横浜市北部域)における総合的研究	横浜市北部域の新たな歴史像を描いていくことを目的とする同総合研究に参加。 ＊財団全体での連携研究事業

（３）外部研究者との共同研究

項 目	目的・内容	今年度の成果目標
横浜関係海外資料調査研究会	館蔵海外関係資料の活用と補足所在調査をおこなう （２／２年次）	①外部講師を招いて研究会を開催し、横浜に関する海外史料の所在情報および海外史料のデジタル公開の現状について情報を共有した。 5/21「租界と外国駐屯軍－資料所在情報」（報告：櫻井良樹氏）、「海外所在の個人史料について」（報告：大山瑞代氏） 12/23「東京大学史料編纂所を中心とする内外史料のデジタル公開の現状と今後に計画について－海外史料を中心に」（報告：保谷徹氏） ②長崎歴史文化博物館資料閲覧室にて海外関係資料調査を実施した（3/7-9）。
横浜幕末維新史研究会	幕末維新时期（おおむね1850～1870年代）の横浜の政治・経済・外交・社会情勢などについて、外部の研究者と共同で調査研究をおこなう （２／３年次）	①幕末維新时期の横浜・東京に関わる研究者を招請し、研究会を開催した。 10/21「田島弥平、明治2年「横浜蚕種日記」について」（報告者：中尾俊介（横浜国立大学）） 11/26「明治後期における内幸町での借地利用と弁護士・増島六一郎による貸事務所

		経営－横浜から東京への外資進出を踏まえて」(報告者:鷺崎俊太郎(九州大学)) ②幕末期横浜の社会情勢・経済活動を知りうる重要史料の翻刻をおこなった。 「水野忠徳雑録」(東京大学史料編纂所蔵)、「市中取締書留」(国立国会図書館蔵)等 ③幕末期横浜の軍事・造船関係史料の調査・収集を行った。 3/15 江川文庫調査 「御艦御用留」等収集
中山恒三郎研究会	都筑区川和・中山恒三郎家文書の活用に関する基礎的研究を、外部研究者と共同で実施する。 (3/3年次)	①中山恒三郎家文書の整理及び目録作成(約1,000点) ②研究会の開催 3/27 今年度の成果確認と今後の活動計画について ③研究成果の発表 『横浜開港資料館紀要』第38号 ・論文「中山恒三郎家資料と地域史研究の展望」(吉田律人) ・論文「江戸菊の近代」(佐藤大悟)
京浜移住者研究会	近代日本における都市移住者と同郷者集団の形成に関する基礎的研究を、外部研究者と共同で実施する。 (3/3年次) ※横浜文化賞奨励金活用研究補助事業として実施。	石川県の研究者・学術団体(加能地域史研究会)との共同シンポジウムの開催準備(2022年12月開催予定)
相武地域史研究会	博学連携事業の一環として、アジア太平洋戦争期の相武地域史に関する研究(軍隊・戦争と地域社会)を東海大学文学部歴史学科と共同で実施する。 (1/2年次)	次年度開催予定のシンポジウムにむけて打ち合わせを行った。

(4) 研究紀要の発行

『横浜開港資料館紀要』第38号を発行した(800部)。

3 常設展事業（定款第4条第1項第1号②）

常設展示室の適切な維持管理をおこなうとともに、新収資料等を紹介するミニ展示を定期的を開催しました。また旧館・中庭を活用したイベントを開催し、集客を図りました。また昨年度から引き続き、毎月第二水曜日を「濱ともデー」として、市内在住65歳以上の来館者を入館無料としました。

（1）常設展示室観覧者の推移（目標数 44,400 人）

	有料入館者(人)					無料入館者 (人)	合計 (人)	前年比	開館 日数	1日平均 入館者(人)
	一般	小中	市内 65	閲覧室	計					
3 年度	11,906	2,164	1,716	750	16,536	4,600	21,136	165.4%	307	69
2 年度	8,573	964	—	411	9,948	2,832	12,780	26.9%	253	51
元年度	21,928	3,470	—	748	26,146	21,398	47,544	85.9%	274	174

＊令和3年度の数字は、企画展を開催していない期間の常設展観覧者数と、企画展開催期間中の入館者数を加算したもの。

（2）常設展示室でのミニ展示

常設展示室内で、新収蔵資料や新発見資料を紹介するミニ展示を開催した。

項 目	内容・成果
ミニ展示	第 107 回 3/6～5/30 「日本の灯台の父」 R・H・ブランドンの旧蔵資料 第 108 回 6/2～8/29 「横浜のまちづくりの父」 R・H・ブランドン 第 109 回 9/1～12/2 「横浜市電の被災と復旧」 第 110 回 12/3～5/26 「日本最古のスポーツクラブ YC&AC」

（3）旧館の活用

文化財施設の活用のため、旧館（旧英国総領事館）1 階の記念ホールや記念室を公開した。

旧館来場者数：48,807 人（年間）

項 目	内容・成果
開港（開館）記念日に関する事業	・記念室（旧総領事室）を6月中、一般公開した。 ・開港（開館）記念日の6月2日を無料開館日として、ミュージアムショップセールを開催。＊今年度は新型コロナウイルス感染拡大の状況から、無料開館、ショップセールともに中止した。
横浜開港資料館新館模型の展示	「建築家・浦辺鎮太郎」展（2020年11月14日～12月13日、会場：横浜赤レンガ倉庫）に出陳された横浜開港資料館新館の建物模型について、展覧会終了後に実行委員会から寄贈を受け、記念ホールに常設展示した。
ライトアップ試験の実施	文化観光拠点計画事業の一環として、既存の照明設備の点検をおこない、夜間のライトアップ試験を実施した。

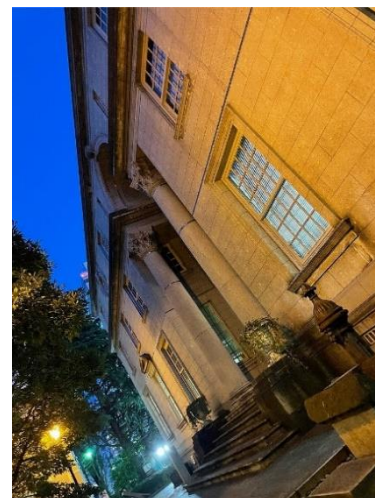
デモンストレーション撮影の実施	文化観光拠点計画事業の一環として、市内の公共施設の撮影規定等を調査するとともに、今後の PR 素材として使用する画像を作成するため、デモンストレーション撮影を実施した。
-----------------	--



新館模型



ライトアップ試験



(4) 中庭展示

横浜市地域史跡である「たまくす」の木を中心に、ハイネ画《ペリー横浜上陸図》の陶板プレート、獅子頭共用栓・ブラフ溝・ガス灯（模型）などの土木資料、開港から昭和戦前期にいたる横浜の歴史を子ども向けに紹介した展示パネルなどを配置して、敷地内を散策する人に横浜の歴史をわかりやすく伝えました。

中庭来場者数：69,248 人（年間）

(5) 常設展示の多言語化

多言語アプリケーション導入に向けての準備として、常設展示室の主要な解説について、総合案内『たまくす』をもとに中国語（繁体字・簡体字）・韓国語への翻訳作業をおこないました。

4 企画普及事業（定款第4条第1項第1号②）

江戸時代後期から明治・大正にかけての横浜の歴史とその関連資料に関する研究成果を、企画展示等を通して公開しました。また新型コロナウイルスの影響で来館できなかった方に向けて、企画展のオンライン解説動画を製作し、公式 YouTube チャンネルで公開しました。あわせて SNS を活用した資料紹介を進めました。

(1) 企画展の実施

企画展名/開催期間	入館者数	目的・意図 及び 内容・成果
第1回企画展示 横浜開港資料館開館 40 周年記念 展示 「七つの海を越えて 「鎖国」下の	4,717 人 (目標数 16,500 人) 1 日あたり	開館 40 周年記念企画展として、江戸時代の日英関係を探る展覧会「七つの海を越えて」を 2 期にわけて開催した。I 期「「鎖国」下の日本とイギリス」では、江戸時代初期から後期（1820 年代）までの日英交流の諸相

日本とイギリス」 R3. 4. 24(土)～7. 11(日) 会期 68 日	69 人 * 目標数は コロナ禍前 の設定	について、これまであまり出陳する機会がなかった当館所蔵資料を中心に展観した。コロナ禍でもあり、ツイッター等 SNS での情報発信に注力し、106 万 3262 件（4～10 月）のインプレッションを得た。
第 2 回企画展示 横浜開港資料館開館 40 周年記念 展示 「七つの海を越えて 開国前後の 日本とイギリス」 R3. 7. 17(土)～11. 7(日) 会期 98 日	6,216 人 （目標数 14,600 人） 1 日あたり 63 人 * 目標数は コロナ禍前 の設定	開館 40 周年記念企画展として、江戸時代の日英関係を探る展覧会「七つの海を越えて」を 2 期にわけて開催した。Ⅱ期「開国前後の日本とイギリス」では、江戸時代後期（1830 年代から明治維新）の日英関係について、在英機関の所蔵する新出資料もまじえて紹介した。展示関連図書『図説日英関係史 1600～1868』は原書房との共同により出版し、制作経費を抑制しつつ当館外（書店等）での販路を開いた。

（2）展示関連事業の開催

事業名称	参加者数	事業内容
第 1 回企画展示 関連講座 R3. 6. 19（土）	37 名	関連講座「「鎖国」下の日本とイギリス」 会場：横浜開港資料館講堂 講師：吉崎雅規（当館調査研究員）
第 2 回企画展示 関連講座 R3. 8. 21（土）	34 名	関連講座「開国前後の日本とイギリス」 会場：横浜開港資料館講堂 講師：吉崎雅規（当館調査研究員）
オンライン展示解説 （動画 7 本作成）		企画展「七つの海を越えて」の内容を紹介するオンライン展示解説 6 本、および『図説日英関係史 1600～1868』の案内動画 1 本を製作し、公式 YouTube チャンネルで公開した。



YouTube でのオンライン展示解説



企画展「七つの海を越えて」関連講座

（3）各種出版物の作成・編集

出版書籍名	作成部数	頒布価額	事業内容
-------	------	------	------

展示関連図書『図説日英関係史 1600～1868』	3000 部	2,750 円 (税込)	B5 判、192 頁。横浜開港資料館編。原書房と当財団の共同出版。
---------------------------	--------	-----------------	-----------------------------------

(4) 地域・市民・学術団体との協働事業の実施

項 目	事 業 内 容 等
横浜郷土史団体連絡協議会との協働	横浜の郷土史に関心の深い市民団体相互の交流促進及び当財団と各団体との協働事業を推進することを目的に設立した横浜郷土史団体連絡協議会（令和 3 年度末現在、加盟 42 団体）との事業協働。 ①総会・大会 6/13(日) 於横浜市歴史博物館講堂 会員交流会は実施せず 展示解説：「縄文むらの原風景」 横浜市歴史博物館 橋口学芸員 ②研修会 新型コロナウイルス流行のため実施せず。 ③役員会実施。 ④横浜郷土史団体連絡協議会 News59 号～61 号発行。 ⑤会報 15 号刊行。
「横浜セントラルタウンフェスティバル Y162」への参加 *中止	開港記念日を中心に、地元の商店街組織（馬車道商店街、関内まちづくり振興会、山下公園通り会、横浜中華街発展会・元町 SS 会）と地元マスコミが主催して行われるイベント。 *コロナ禍により中止。
横浜商工会議所などの機関誌への原稿執筆および学会との連携事業	横浜商工会議所機関誌「Yokohama 商工季報」、横浜港振興協会機関誌「よこはま港」、横浜市防火防災協会機関誌「よこはま都市消防」等への寄稿。

(5) 行政との連携事業

項 目	事 業 内 容 等
「文化財保存活用地域計画」策定に係る委託業務および委員の派遣	横浜市教育委員会生涯学習文化財課が進める「文化財保存活用地域計画」の策定において、歴史的背景・関連文化財群等の執筆業務を請け負ったほか、地域計画協議会に委員2名（当館副館長、歴史博物館副館長）を派遣した。 協議会：8月26日、1月19日
発掘調査および歴史的建造物の保存改修工事等への助言	・旧横浜市役所敷地内の発掘調査現場で検出された二代目横浜市庁舎遺構の保存整備手法に関して、所管局に助言をおこなった。 ・港の見える丘公園（拡張部）内の発掘調査現場で検出されたアメリカ海軍病院遺構の保存整備手法に関して、所管局に助言をおこな

	った。 ・本郷町ガス山公園内の煉瓦造構造物（市登録歴史的建造物）の前面煉瓦壁の保存手法に関して、所管局に助言をおこなった。
「広報よこはま なか区版」への執筆協力	「広報よこはま なか区版」の連載記事「なか区歴史の散歩道」を都市発展記念館職員と共同で執筆した。2022 年 1 月号から新連載「鉄道 150 周年記念～中区・駅めぐり編」を開始した。
横浜市広報誌・広報番組への協力	横浜市広報課発行「季刊誌横濱」各号への執筆協力。 横浜市広報番組 TVK「ハマナビ」、FM ヨコハマ「YOKOHAMA My Choice!」、文化放送「横浜流儀～ハマ・スタイル～」等への出演。

(6) マスコミ各社への協力

項 目	事 業 内 容 等
テレビ局・新聞社などへの協力	『NHK スペシャル シリーズ幕末－グローバル国家の興亡－』、NHK「ブラタモリ」取材対応、NHK ラジオ「はま☆キラ!」、テレビ東京「新美の巨人たち」への出演ほか。

(7) 学校連携

項 目	事 業 内 容
博物館館務実習の受け入れ	博物館学芸員資格取得を目指す「博物館実習」受講生を受け入れた。コロナ禍での開催となり、ソーシャルディスタンスを保つための対応として、実習場所を講堂とし、全体を 2 グループに分けて日程をずらして受講してもらった。 10/16 (土)・23 (土)・24 (日)・30 (土)・31 (日) 11/6 (土) 8 人
アーカイブズ・カレッジの受け入れ	国文学研究資料館が主宰するアーカイブズ・カレッジ（史料管理学研修会）の施設見学（受講者による個別見学）を受け入れた。 9/3 (金)
神奈川県高等学校文化連盟との連携	第 27 回神奈川県高等学校社会科研究大会（オンライン開催）を財団と共催し、審査員として財団の調査研究員を派遣したほか、運営を支援した。
市内小学校団体見学の受入	これまで横浜都市発展記念館で実施してきた、小学校4年生のカリキュラムで学習する吉田新田にあわせたメニューの実施に本年度より当館の講堂を提供。28校、1,439人の利用があった。

(8) 広報紙の発行、一般広報等

項 目	事 業 内 容
-----	---------

館報「開港のひろば」発行	企画展示・収蔵資料・館活動の紹介 第151号～第153号（年3回） 年間合計 34,500 部
リーフレット類作成	子ども用リーフレットの修正・増刷 ＊横浜開港資料館催し物案内は作成せず
その他広報	① 横浜観光情報、インターネットミュージアム等の情報サイトへの情報掲出 ② 当館HPやメールニュース、SNS による催し物等の情報発信 ③ みなとみらい線日本大通り駅構内への企画展ポスター掲示 ④ 市内公共施設、博物館、図書館、観光施設、ホテル、駅観光案内所等への広報印刷物の配布 ⑤ 新聞、タウン情報誌等への情報発信、記事掲載 ⑥ TV、ラジオ、新聞、CATV等のメディアからの取材受け ⑦ 市広報誌への記事掲載依頼

5 情報事業（定款第4条第1項第1号②）

インターネット等を利用して、文化財・歴史資料及び展示等に関する情報を提供するためにデータの入力等を行い文化財情報の発信に関わる機器類の保守管理を行いました。

項 目	事 業 内 容
インターネットによる情報公開	展示・催し物・刊行物の広報や、収蔵資料の紹介を随時行った。 また、昨年更新した OPAC システムに所蔵図書・新聞雑誌の追加アップを行った。 「開港のひろば」を発行に合わせて年3回、テキスト情報を持った（文字検索や読み上げが可能な）PDF 画面で掲載した。 また、情勢に合わせて利用案内等の更新を頻繁におこなった。日本語のページだけでなく、英語・中国語・韓国語のページも適宜更新した。 ・HPアクセス件数 合計 126,964 件 TwitterやYouTubeなどのオンラインツールを通じて、展示や館蔵資料に関する情報を定期的に発信した。 【Twitter】 ・ツイート数 424 ・ツイートインプレッション 1,201,072 ・プロフィールへのアクセス 240,320 ・フォロワー 1,082 【YouTube】 ・公開動画本数 15 ・視聴回数 3,057

	・登録者数 118
企画展特設サイトの作成	企画展「七つの海を越えて」の特設サイトを新規に制作し、展示概要、講座・出版物情報、日英関係にゆかりのある方々からのメッセージ等、展示関連情報を随時発信した。
メールニュースの配信	「横浜開港資料館メールニュース」第194号～第205号(計12回)を1,375～1,417名の登録者に配信した。

6 旧館活性化事業（定款第4条第1項第1号②）

開港資料館の旧館（旧英国総領事館）および付属棟（旧門番所）の建物を、関内エリアのあらたな観光拠点としてより幅広く活用していくために、文化庁の補助金事業「横浜開港資料館における文化観光拠点計画」の認定を受け、5か年の再整備事業に着手しました。今年度の施設整備では、付属棟の改修工事や、隣接する神奈川県庁東庁舎からのスロープ設置工事などを実施しました。

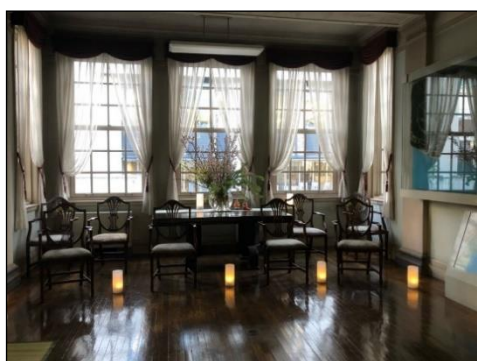
（1）施設整備

項 目	内容・成果
付属棟の劣化調査および改修工事の実施	付属棟（旧門番所、横浜市指定文化財）の劣化調査をおこない、その結果をふまえて、屋根廻りの雨漏り補修や外壁のクラック補修を中心とした改修工事を実施した。
旧館の劣化調査の実施	次年度の実施設計に向けて、旧館（旧英国総領事館、横浜市指定文化財）の劣化調査をおこない、その結果をふまえて、屋根廻りの雨漏り補修や外壁のクラック補修を中心とした建物の保存活用計画を策定した。
県庁東庁舎連絡口へのスロープの設置	敷地内のバリアフリー対策の一環として、隣接する神奈川県庁東庁舎からの連絡口の段差解消のため、スロープ設置工事を実施した。実施にあたっては、市の担当部局と調整をおこない、景観条例にもとづいた色彩と形状のスロープを設計・設置した。
公衆Wi-Fiの設置	今後の施設活用に向けたインフラ整備として、新館および旧館の一般公開部分にWi-Fiルーターを設置し、常設展示室内や旧館記念ホールでのインターネット利用が可能になった。

（2）旧館を活用したイベントの実施

項 目	内容・成果
第2回横浜ユーラシア・スタチュー・ミュージアム R3.11.20(土)・21(日)	横浜ユーラシア文化館・都市発展記念館、横浜開港資料館、日本大通りに加えて、横浜中華街の合計9会場にポイントを設け、オリジナル・スタチュー「赤い靴の女の子」「兵馬俑」を含む19体のスタチューによるパフォーマンスを実施した。 *横浜ユーラシア文化館主催、横浜開港資料館共催

開港資料館モニターツアーの実施 R4.2.15(火)・26(土)	文化観光拠点計画事業の一環として、大学生を対象に、開港資料館および周辺の史跡をめぐるモニターツアーを実施して、今後の事業化に向けてヒアリングをおこなった。
富裕層向け高付加価値ツアーのモニターツアー実施への協力 R4.2.21(月)	横浜観光コンベンション・ビューローが主催する富裕層向け高付加価値ツアーのモニターツアー実施に協力し、旧館会議室を会食の会場として、記念ホールを能舞台鑑賞の会場として提供した。



富裕層向けモニターツアー (左) 記念ホール (右) 能楽

スタチュー・ミュージアム

(3) 公開部分の拡張に向けた基本計画の策定

横浜市指定文化財である旧館（旧英国総領事館）を、横浜開港の歴史を伝えるあらたな展示施設として公開するため、建物としての魅力を楽しみながら、近隣エリアの観光の拠点とするよう、関連施設として、国内に現存するイギリス領事館の建物（函館、下関）や同じ開港場であり、歴史的建造物がまちづくりの魅力となっている神戸への視察をおこなった。その結果を活かして、旧館内で展示スペースとして公開する範囲を確定させ、新館を含めた来館者の動線計画、展示全体の基本方針や展示シナリオを盛り込んだ「旧館展示基本計画」を策定した。

7 開港資料館施設維持事業（定款第4条第1項第1号③）

開港資料館の維持管理及び運営を行いました。設備関係については昨年度同様、新館の空調システム内の機器に不具合が発生し交換を行いました（冷却水循環ポンプの異音）。同システムは設置から交換目安となる10年が既に経過しており、システム全体の更新が強く望まれます。建築関係では、付属棟の旧喫茶室、図書閲覧室の荒天時における漏水といった問題がありましたが、両室とも修繕を行い改善されました。今後も新たな箇所からの漏水発生も想定されることから、荒天時・後における館全体の巡回・監視の強化に努め、確認された場合は即時修繕を実施します。設備、建築物共に経年劣化が進んでいることから、計画的な修繕を図ると同時に、横浜市と連絡を密にしながら、適切な施設の維持管理に努めます。

管理対象施設	事業内容・所在地など
開港資料館	資料の保管・管理、資料館の施設維持・管理。 主な不具合：新館 B1F 収蔵庫前・旧館 2 階廊下の天井部結露、空気調和機（新館 1・2 階展示室系統）のモータ異音（令和 4 年度交換予定）、新館、旧館の蛍光灯安定器障頻発（LED 化対応への遅れ）主な修繕：冷却水循環ポンプ交換、図書閲覧室漏水修繕工事、軟水器サンプリングバルブ交換、冷却塔バタフライ弁交換、温水ボイラー更新工事（横浜市長寿命化対策工事）

8 開港資料館収益事業（定款第 4 条第 1 項第 2 号）

（1）ミュージアムショップの経営

- ① 企画展関連書籍や絵はがき・バンダナ・ミニタオル等のグッズを継続販売
- ② オリジナル商品の新規作成
- ③ 展示に合わせた書籍や横浜関連のグッズなどの仕入れ販売
- ④ オンラインショップの開設
- ⑤ 新規受付業務委託業者との調整

（2）自動販売機（1 台）の設置

施設利用者の利便を図るため、新館脇に自動販売機を設置している。

<各事業の推移>

（千円）

項 目	令和 3 年度	令和 2 年度	令和元年度
ミュージアムショップ売上	2, 2 2 7	8 8 9	2, 8 7 4
自動販売機手数料収入	8 9	7 2	9 4
喫茶室委託料収入	—	1, 8 6 0	1, 8 8 0

※喫茶室は令和 2 年度末で契約を終了した。

事業別評価

事業名称	実施概要	評価
資料収集保管事業	大正期横浜市長の旧蔵資料をはじめ貴重な資料が収集できた。また文化庁の補助金を得て、今後のデジタルアーカイブの公開を見据えた画像資料のデジタル化および館蔵資料の解説動画の制作を進めた。	A

調査研究事業	各調査研究・連携研究を順調に進め、成果を企画展や財団各施設の紀要等で公表した。外部研究者との共同研究も予定どおり進捗した。	A
常設展事業	入館者数は前年度比の 165%となったものの、コロナ禍が続いたことで、無料開館などの企画が中止となり、コロナ前の半分程度の回復状況である。展示では定期的にミニ展示を開催し、情報発信と集客につとめた。	B
企画普及事業	今年度は江戸時代の日英関係をテーマとして、企画展を 2 回にわけて実施した。年間の来館者数は目標に達しなかったが、これまで公開されていなかった館蔵資料を広く紹介することができ、民間出版社と共同で図録を出版したほか、SNS での情報発信も積極的におこない、展示内容の普及につとめた。	A
情報事業	定期的な HP コンテンツの更新、メールニュースの配信に加えて、積極的に Twitter での情報発信をおこない、ツイートインプレッションの数を大きく伸ばした。	A
旧館活性化事業	文化庁の補助金事業「文化観光拠点計画」にもとづき、5 ヶ年事業の初年度として、施設の改修工事をはじめ再整備事業を順調にスタートさせた。	A
施設維持事業	資料の保管・管理、施設の維持・管理を適切に実施し、建物や器械の老朽化によりトラブルが多発する現状にありながら館運営に支障がないように努めた。また、今年度より設備管理、警備業務共に新規業者に入れ替えとなった。これまで以上に連絡を密に取りながら、不具合箇所の早期発見に努め、効率的、計画的な管理運営ができるよう取り組みを進めている。	A
収益事業	令和 2 年度末で契約を終了した喫茶室の収入分の減少に加え、企画展の開催回数を減らしたことなどから、依然、収入は厳しい状況であるが、オンラインショップを開設して遠方からのニーズに応え、コロナ禍で外出できない状況においても当館の商品を購入していただけるよう、販売体制を整えた。	A

4 都市発展記念館事業

令和 3 年度は、新型コロナウイルス感染拡大が続くなかで、感染対策を実施しながら、コロナ禍における事業の取り組みを継続しました。

企画展事業では、2020 年から開催が 1 年延期された「東京オリンピック 2020」にあわせて、企画展「スポーツの祭典と横浜」を開催しました。展示では、1964 年の東京オリンピック開催時の横浜関係資料を中心に横浜のスポーツ史をたどりながら、2020 大会に向けての横浜市の取り組みについても紹介しました。

また 2022 年が鉄道開業 150 周年であることから、そのプレ展示として、「激震、鉄道を襲う！」を開催し、貴重な記録写真をもとに、関東大震災から横浜の交通網が復興する過程を紹介しました。この展示の開催直前に、企画展示室の空調設備が故障する事態となり、修繕工事が終了するまでの期間、展示の開催を延期せざるを得ませんでした。開館から 20 年近くが経ち、老朽化した設備の更新は喫緊の課題となっています。

資料収集保管事業では、戦後のニュース映像のデジタル化を進めるなど、当館の映像コレクション公開に向けての基礎作業を着実に実施しました。また調査研究事業では、都市交通・近代遺跡・スポーツ等をテーマとした基礎研究をおこない、その成果は今年度の企画展やコーナー展、紀要で公表しました。財団諸施設や外部研究者との連携研究事業も、シンポジウムなどの実施に向けて、準備を進めています。

昨年度に引き続き、コロナ禍で地域の大規模イベントが軒並み中止となり、当館でも例年実施していた開港記念日や開館祭を中止としましたが、来館できない方に向けて昨年度から始めた Twitter や YouTube などのオンラインツールを活用した展示解説や資料紹介は、どちらも利用者を大きく伸ばしました。また学校連携では、ユーラシア文化館・開港資料館と連携し、感染防止対策を整えたうえで、市内小学校団体を受け入れました。

1 資料収集保管事業（定款第 4 条第 1 項第 1 号①）

横浜の都市形成、生活文化の歴史に関する資料を、購入・複製・マイクロ撮影等により収集し、分類・整理するとともに、良好な状態で保管するため、資料の修繕・燻蒸や定期的な環境調査を行いました。

（1）資料収集

項 目	点 数	事 業 内 容
資料の寄贈・寄託	寄贈5件 3,523点 寄託0件 0点	主な資料：2002年ワールドカップ 関係資料収集ファイル、平成年間の鶴見区を中心とした横浜市内の風景・イベント・寺社・祭事等カラー写真、バントホテル新館増築工事設計図、「湘南電鉄 1 型復元記念」模型、ほか
資料の購入	1件 1点	主な資料：横浜停車場平面図
資料の移管	1件 113点	主な資料：旧神奈川ニュース映画協会他製作映像フィルム
資料修繕	0件	主な資料：なし

資料の複製収集	1件 9点	主な資料：神奈川ニュース（横浜市政ダイジェスト）（平成10～15年度）
資料のデジタル化	10点	主なデジタル化資料：「ヨコハマ・ポートサイド」
複製資料の提供	55件 182点	他の博物館や公共機関、出版社、個人などへ当館所蔵資料のデジタルデータ（画像および映像）を提供した。
資料の特別利用	4件 17点	調査研究目的による、当館所蔵資料の原資料での特別利用に対応した。
資料の貸出	1件 23点	他の博物館施設等での事業に当館所蔵資料の原資料を貸し出した。

（２）資料収集実績（R3.4～R4.3）

区 分	購入	複製	寄贈	寄託	合計	累計
遺物	- (-)	- (-)	11 (1)	- (-)	11 (1)	1,681 (1,670)
図書	- (9)	- (-)	16 (2)	- (-)	16 (11)	2,420 (2,404)
新聞雑誌	- (7)	- (-)	- (-)	- (-)	- (7)	2,180 (2,180)
文書	- (25)	- (-)	55 (1)	- (-)	55 (26)	4,462 (4,407)
紙票類	- (4)	- (-)	76 (-)	- (-)	76 (4)	5,613 (5,537)
写真	- (-)	- (-)	3,358 (144)	- (-)	3,358 (144)	25,640 (22,282)
絵葉書	- (15)	- (-)	4 (-)	- (-)	4 (15)	2,525 (2,521)
地図	1 (2)	- (-)	- (1)	- (-)	1 (3)	740 (739)
図面	- (7)	- (-)	1 (-)	- (-)	1 (7)	949 (948)
絵画	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	2 (2)
映像	- (-)	9 (-)	2 (-)	- (-)	11 (-)	66 (55)
録音資料	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	171 (171)
電子資料	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	12 (12)
合 計	1 (69)	9 (-)	3,523 (149)	- (-)	3,533 (218)	46,461 (42,928)

※（ ）内は、前年度点数。

（３）資料の保存・管理

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
保存燻蒸処理	外部倉庫での未燻蒸資料の資料燻蒸を実施した（１回）。

環境調査	虫菌による被害を未然に防ぎ、大気・塵埃・光線等の影響を最小限に抑えるため、年6回の環境調査をユーラシア文化館と共同で実施した。
------	---

(4) 資料保管施設

保管施設	保 管 資 料
都市発展記念館・ユーラシア文化館 収蔵庫 (200m ²)	図書、文書、紙票類、地図、図面、出土遺物などを収蔵
外部倉庫 (子安台)	大型資料 (昭和初期の置時計・大テーブル他) などを収蔵
外部倉庫 (大黒ふ頭)	大型資料、映像フィルム、未整理資料などを収蔵

2 調査研究事業 (定款第4条第1項第1号①)

「都市形成」「市民の暮らし」「ヨコハマ文化」の3つのテーマに即して、資料調査・研究を行いました。また開港資料館・市史資料室・歴史博物館との連携研究事業を進めました。

(1) 基礎的調査研究

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
横浜都市形成史 (3 / 3 年次)	関東大震災から高度経済成長期までの昭和期を中心に、現代都市横浜が形成される過程を、都市政策・都市計画 (港湾計画)・都市交通などの観点から明らかにする。 【都市交通】 - 横浜開港資料館所蔵の横浜市電気局編『大震災火災電気鉄道被害情況』及び河邊啓太郎氏所蔵 (横浜開港資料館保管) の『関東大震災鉄道復旧工事写真帳』を中心に関東大震災時の鉄道被害について調査した。その成果を企画展「激震、鉄道を襲う！—関東大震災と横浜の交通網—」および展示図録で公表した。 - 今年度も引き続き都市交通について資料の整理と分析を行った。その成果をもって、市営交通100周年事業に監修等の協力をし、常設展示室コーナー展「【横浜市営交通100周年】横浜市電のはじまり」として公開した。また、横浜開港資料館のミニ展示コーナーでも「横浜市営交通100周年・関東大震災98周年 横浜市電の被災と復旧」を開催した。 【近代遺跡調査】中華街で出土した旧中華会館・関帝廟の遺構と遺物について、ユーラシア文化館・埋蔵文化財センターと連携して調査をおこない、その成果を「旧中華会館・関帝廟の遺構と遺物」として『横浜都市発展記念館紀要』第17号に掲載した。

	【横浜地図データベース事業】過年度の開港資料館・市史資料室との連携事業の成果をもとに横浜および横浜周辺の地図について所在調査と分析を行う。今年度も引き続き所蔵地図資料の高精細デジタル画像データの作成と整理を行った。
横浜都市経済・産業史 (3/3年次)	昭和期を中心に下記の三つの視点から現代都市横浜の経済（産業）構造を明らかにする。 (1)商業地区（商店街）の形成と変容について／(2)観光および都市イメージの形成と変容について／(3)工業地帯の形成と変容について 今年度も(2)に関連して、映像資料（横浜市広報番組）の整理とデジタル化を行い、分析を進めた。また同番組フィルムを別途所蔵する中央図書館から、同館所蔵フィルムの移管を受けた。
横浜市政史／都市生活・文化史 (3/3年次)	昭和期を中心とした横浜スポーツ史に関する資料を調査し、スポーツが行政および市民生活に与えた影響について明らかにする。 明治・大正期の横浜スポーツに関する資料のほか、昭和期における平沼亮三のスポーツ関連資料、第18回オリンピック東京大会関連の市内スポーツ関係施設所蔵資料、市内在住のオリンピック東京大会関係者所蔵資料の調査成果を、企画展「スポーツの祭典と横浜」および展示図録で公表した。

(2) 財団諸施設との連携研究事業

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
戦中・戦後期の都市横浜に関する連携研究	戦争の時代から戦災復興を経て、高度経済成長へと至る昭和期横浜の歴史を多角的に明らかにする調査研究事業。当館および市史資料室所蔵の戦後混乱期における児童養護関係資料の調査・研究を行い、『横浜都市発展記念館紀要』No. 17に「戦後横浜における戦争孤児・『浮浪児』の実態―日本厚生団ボーイズホーム資料群の分析より―」、「戦後横浜の「混血孤児」問題と聖母愛児園の活動」として報告した。 ※開港資料館・市史資料室との連携研究事業
昭和期の横浜の都市生活に関する調査研究	戦後期横浜の市民生活の実態を明らかにするため、磯子区の時計店に勤務していた下平政熙氏の直筆日記（当館蔵）の昭和戦後期（昭和21～26年）の読解・分析をおこない、『横浜都市発展記念館紀要』第17号に「戦後混乱期横浜の都市生活誌」として報告した。 ※開港資料館との連携研究事業
都市横浜「歴史空間」復原への調査研究事業	都市横浜の歴史空間を復元するため、関内地区の幕末～明治初期の古地図の描き起こし作業をおこなった。また、1850年代の横浜周辺の絵図を分析し、『横浜市歴史博物館紀要』第26号に「〈資料紹介〉〔神奈川より金沢まで沿岸図〕について」として報告した。 ※開港資料館、県立歴史博物館との連携研究事業

共同資料調査	都筑区川和町の旧家である中山恒三郎家資料について、地誌や自治体史、人物誌等の調査を実施し、その成果を『横浜開港資料館紀要』第38号（2022年3月）に「中山恒三郎家資料と地域史研究の展望」として発表した。 ＊開港資料館・歴史博物館との連携研究事業
--------	--

（３）外部研究者との連携研究事業

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
京浜移住者研究会 （３／３年次）	近代日本における都市移住者と同郷者集団の形成に関する基礎的研究を実施する。今年度は石川県鹿島郡中能登町でシンポジウムを開催する予定であったが、新型コロナウイルスの感染拡大のため、次年度に延期することとなった。主に石川県の研究者・学術団体（加能地域史研究会）との間で連絡、調整を行った。 ＊笹川科学研究助成（実践研究部門）及び横浜市ふるさと歴史財団・横浜文化賞奨励金活用研究補助事業として実施。
相武地域史研究会 （１／２年次）	博学連携事業の一環として、東海大学文学部歴史学科と共同で、アジア太平洋戦争期の相武地域史に関する研究（軍隊・戦争と地域社会）を実施する。今年度は共催シンポジウムの開催に向けた準備作業をおこなった。 ＊開港資料館・東海大学文学部歴史学科との連携研究事業
建築家中村順平に関する基礎的研究 （２／３年次）	横浜高等工業学校建築科（現・横浜国立大学工学部建築学科）の創設100周年に向けて、同校建築科の主任教授を務め、独自の建築教育で多くの建築家たちを育てた建築家中村順平に関する資料の収集・整理を、外部研究者と連携して実施する。今年度は、第一期卒業生の網戸武夫旧蔵資料の整理をおこない、仮目録を作成した。

（４）研究紀要の発行

『横浜都市発展記念館紀要』第17号（500部）の編集・発行をおこなった。

３ 常設展事業（定款第４条第１項第１号②）

常設展示室の維持管理を行うとともに、「常設展示室コーナー展」として話題性のある資料や新収蔵資料、企画展関連資料による展示を定期的に更新し、集客と来館者サービスに努めました。また昨年度から引き続き、毎月第二水曜日を「濱ともデー」として、市内在住65歳以上の来館者を入館無料としました。

（１）常設展示に関する実施事業

項 目	事 業 内 容
展示資料の更新	・博物館実習の一環として、実習生による館蔵絵葉書を用いたミニ展示「ビールが彩る横浜の賑わい～震災復興期のキリンビールと伊勢佐木町～」を設置した。

コーナー展の開催	・「【横浜市営交通100周年】横浜市電のはじまり」 R3/5/25（火）～R4/3/6（日） 横浜市営の交通事業の開始から100年を迎えるにあたり、当館所蔵資料により、誕生した頃の横浜市電の姿を紹介した。
	・「吉田初三郎の鳥瞰図」 R4/3/8（火）～ 当館で所蔵する吉田初三郎の鳥瞰図のうち、横浜周辺のものを展示している。
	・「関外と伊勢佐木町の発展～吉田新田その後～」 学校教員や小学校団体向けに、吉田新田エリアの近代以降の発展について資料を常時展示している。

(2) 常設展示観覧者の推移（目標数39,000人）

	有料入館者（人）			無料入館者（人）	合計（人）	前年比	開館日数	1日平均入館者(人)
	一般	小中	計					
R 3 年度	948	763	1,711	14,334	16,045	157.0%	307日	52
R 2 年度	902	178	1,080	9,141	10,221	31%	242日	42
R 1 年度	864	510	1,374	32,021	33,395	80%	278日	120

4 企画普及事業（定款第4条第1項第1号②）

昭和期を中心とした横浜の歴史をより身近で興味深く感じてもらえるよう、またより多角的な視点から紹介できるよう、展覧会をはじめ、講座や各種イベントの開催、出版等の事業を開催しました。昨年度に引き続き、直接来館できない方に向けて、企画展のオンライン解説動画を製作し、公式YouTubeチャンネルで公開しました。あわせてSNSを活用した資料紹介を進めました。また小学校団体の受け入れについては、新型コロナウイルス感染拡大防止につとめながら、ユーラシア文化館及び開港資料館と一体となって実施しました。

(1) 企画展の実施

展示名／開催期間	観覧料	入館者数	目的・内容
企画展「スポーツの祭典と横浜」 令和3年7月17日（土）～9月26日（日） 開館日数62日	一般 300円 小・中 150円	1,485人	東京 2020 オリンピック・パラリンピック大会の機運醸成に貢献することを目指し、1964年オリンピック東京大会を中心とした横浜スポーツに関する地域資料を展示したほか、東京 2020 大会における横浜市の取り組みについても紹介した。 【関連事業】 (1) 展示図録の編集・発行 定価：980円（税込）、売上：75冊 (2) YouTube チャンネルでのオンライン展示解説の公

			開（全4本） (3)Twitterでの展示資料紹介 (4) ギャラリー展「映像と写真で振り返る！ 横浜の昭和期のスポーツ」 会場：1階ギャラリー (5) 図録購入者およびアンケート回答者を対象として、市民局より提供を受けた東京 2020 大会横浜関連記念品のプレゼントを行った。
企画展「激震、鉄道を襲う！ 関東大震災と横浜の交通網」 令和4年3月12日(土)～7月3日(日) 開催日数17日(3月末まで)	一般 500円 小・中 250円	770人 (3月末まで)	関東大震災によって壊滅的な打撃を受けた横浜の交通網の被害状況と、鉄道の復旧過程を主に鉄道技師の残した写真資料を中心に紹介した。 *会期直前の空調機故障により会期を変更して開催。 【関連事業】 (1)展示図録の編集・発行 定価：1320円(税込)、売上：135冊 (2)展示解説 3月12日(土) 参加者16人 3月13日(日) 参加者26人 (3)パネル展「鉄道橋の関東大震災」の開催 会場：旧第一玄関、1階ギャラリー 1月15日(土)～5月29日(日) (4)Twitterでの展示資料紹介
次年度企画展準備			次年度開催予定の企画展「鉄道開業150周年」(仮)に向けて資料調査を実施した。



「スポーツの祭典と横浜」オンライン展示解説



企画展「激震、鉄道を襲う！」展示解説

(2) 企画展示室観覧者の推移

(人)

	有料入館者	無料入館者	合計 (人)	前年比	開館日数	1日平均入館者
R3年度	1,235	1,020	2,255	59.1%	79	29

R 2 年度	2, 849	965	3, 814	51. 3%	116	33
R 1 年度	2, 588	4, 848	7, 436	31. 5%	99	75

(3) 普及啓発事業・集客イベント

事業名称	参加者数	事業内容
パネル展 「鉄道橋の関東大震災」 R4/1/15（土）～5/29（日）	385人 (1/15～ 3/31)	橋梁専門の鉄道技師であった木村義麿の残した『関東大震災鉄道復旧工事写真帳』（河邊啓太郎氏蔵／横浜開港資料館保管）から鉄道橋の復旧過程を紹介した。 会場：1F ギャラリー、旧第一玄関
開港記念日 中止		市内の小学校が休みとなる 6 月 2 日の開港記念日を無料開館日とし、小学生向けのワークショップを開催。 *新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。
月イチ講座の開催 中止		1 階ギャラリーを活用した月 1 回定例の講座。 *新型コロナウイルス感染拡大防止のため、当面对面での実施を中止。 *ユーラシア文化館との共催
第 2 回横浜ユーラシア・スタチュー・ミュージアムの共催 R3. 11. 20(土)・21(日)	227人 ※一斉展示観覧者 (中庭)	横浜ユーラシア文化館・都市発展記念館、横浜開港資料館、日本大通りに加えて、横浜中華街の合計 9 会場にポイントを設け、オリジナル・スタチュー「赤い靴の女の子」、「兵馬俑」を含む 19 体のスタチューを設置した。両日とも全館無料開館した。
開館祭 R4. 3. 12(土)・13（日） 中止	244人	コロナ感染拡大防止のため開館祭は中止とし、代わりに開館記念日として都二両館で無料開館とし、企画展の展示解説を実施した。 展示解説参加者：16 人（3/12）、26 人（3/13）



パネル展「鉄道橋の関東大震災」



横浜ユーラシア・スタチュー・ミュージアム

(4) 地域・行政・学術団体との連携事業

項 目	事 業 内 容
横浜セントラルタウン・フェスティバルY162への参加 *中止	地域の商店街組織（馬車道商店街、関内まちづくり振興会、山下公園通り会、横浜中華街発展会・元町SS会）と地元マスコミが主催して行われるイベントに、山下公園通り会として開港資料館・ユーラシア文化館と共同で参加。 *コロナ禍により中止。
「文化財保存活用地域計画」策定に係る委託業務および委員の派遣	横浜市教育委員会生涯学習文化財課が進める「文化財保存活用地域計画」の策定において、歴史的背景・関連文化財群等の執筆業務を請け負ったほか、地域計画協議会に委員2名（当館副館長、歴史博物館副館長）を派遣した。 協議会：8月26日、1月19日
発掘調査および歴史的建造物の保存改修工事等への助言	・旧横浜市役所敷地内の発掘調査現場で検出された二代目横浜市庁舎遺構の保存整備手法に関して、所管局に助言をおこなった。 ・港の見える丘公園（拡張部）内の発掘調査現場で検出されたアメリカ海軍病院遺構の保存整備手法に関して、所管局に助言をおこなった。 ・本郷町ガス山公園内の煉瓦造構造物（市登録歴史的建造物）の前面煉瓦壁の保存手法に関して、所管局に助言をおこなった。
事業監修	横浜市交通局による横浜市営交通100周年事業に協力し、一部内容を監修した出版物『横浜の街とともに 横浜市営交通100年』が発行された（神奈川新聞社発行、7月1日販売開始）。
「広報よこはま なか区版」への執筆協力	中区に関する歴史資料を紹介する連載記事「歴史の散歩道」を、「広報よこはま なか区版」に開港資料館と共同で執筆。2022年1月号から新連載「鉄道150周年記念～中区・駅めぐり編」を開始した。

（５）学校連携事業

項 目	事 業 内 容
市内小学校団体見学の受入	小学校4年生で学習する吉田新田にあわせて、「吉田新田の開発とその後」（関外地区の発展）をテーマに、エドゥケーターと職員による解説を実施。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、開港資料館講堂も利用して、28校、2,093人の小学校4年生の団体入館を受け入れた。（前年度小学校4年生19校 1,333人）
教員向け研修の実施 *中止	財団エドゥケーターと連携して、小学校4年生向けの解説・体験メニュー「吉田新田の開発とその後」について、夏休みに小学校教員向けの研修を実施。 *コロナ禍により中止。

	横浜市小学校社会科研究会と連携しての研修会の実施。 ＊コロナ禍により中止。
神奈川県高等学校文化連盟との連携	第27回神奈川県高等学校社会科研究大会（オンライン開催）を財団と共催し、審査員として当館の調査研究員を派遣した。
学芸員実習の受け入れ	4名の学生を受け入れた（10/28～11/3）。新型コロナウイルスの感染拡大状況を考慮し、実施時期を8月から10月に変更して実施した。最終日には実習生にミニ展示を企画してもらい、学芸員の仕事について総合的な理解を深めてもらうと同時に、当館の常設展事業のひとつにつなげた。

（6）広報

項 目	事 業 内 容
印刷物作成	年2回の催し物案内、企画展関連広報印刷物、館報を中心に、適宜イベントチラシを作成・配布を行った。 ・横浜都市発展記念館催し物案内（館案内リーフレット） ・企画展ポスター・チラシ ・館報『ハマ発Newsletter』第35および36号（各10,000部） ・その他、月イチ講座、開館祭チラシなど
優待カードの発行	年間パス「E Aハマ発カード」の販売を継続した。 年会費 1,500円
その他広報	横浜市を通じての記者発表 横浜市文化観光局の媒体を通じての広報活動 市内学校・公共施設へのチラシ配布 日本大通り駅改札外掲示板へのポスター掲出 ホームページ・Twitter・YouTubeチャンネルによるインターネットでの情報配信 テレビ・ラジオ・ケーブルテレビ・インターネット等放送媒体への情報提供、取材受入 新聞各社・雑誌・タウン情報誌・旅行情報誌・その他広報誌等への情報提供、取材受入 市内観光案内所へのチラシ訪問配布 市外都市旅行代理店への施設説明 フィルムコミッションへの協力による撮影場所としてのPR

5 情報事業（定款第4条第1項第1号②）

インターネット等を利用して、歴史資料及び展示等に関する情報を提供するために、データの入力等を行い、文化財情報の発信に関わる機器類の保守管理を行いました。

項 目	事 業 内 容
ホームページ運営	新着情報の発信 企画展示案内の更新 館報『ハマ発Newsletter』の全文掲載 ミュージアムショップの案内（刊行物・グッズ）
メールニュース配信	企画展の情報を中心に、関連イベントや月イチ講座、ショップの新商品などの内容を盛り込んだメールニュースを定期的に配信した。 配信数 70～74号，号外 計6回
オンラインツールによる情報発信	TwitterやYouTubeなどのオンラインツールを通じて、展示や館蔵資料に関する情報を定期的に発信した。 【Twitter】 ・ツイート数 202 ・ツイートインプレッション 298,933 ・プロフィールへのアクセス 109,710 ・フォロワー 635 【YouTube】 ・公開動画本数 27 ・視聴回数 16,560 ・登録者数 339

6 都市発展記念館施設維持事業（定款第4条第1項第1号③）

都市発展記念館の維持管理及び運営を行いました。

管理対象施設	事業内容など
都市発展記念館	施設の維持管理 ・常設展示導入部照明LED化工事 ・ガス燈部品交換・保守点検 ・収蔵庫空調機修理 ・1～4階エレベータホール系統空調機修理 ・除湿機による展示室内湿度管理 ・排煙機用原動機始動用蓄電池交換 ・ITV設備修繕 ・業務用エレベータピット底部排水工事 ・3階企画展示室空調機ガス漏れ検査・修理 ・消防設備点検・防火対象物点検・防災管理点検 ・インターホン交換工事 ・エレベータ、自動ドアの定期点検 ・館内清掃、コロナ対策ウイルス除去作業

7 都市発展記念館・ユーラシア文化館収益事業（定款第4条第1項第2号）

（1）ミュージアムショップの経営

感染対策として、店頭の図録や鳥瞰図は見本だけをならべ、そのほかの商品も OPP 袋に入れられるものだけを販売していたが、店頭の商品を徐々に増やし、年度内にほぼすべての商品が並んだ。まだ出せていない高額の商品は、外のラックとエレベーター内にポップを貼り、希望される方に商品をご覧いただくスタイルにし、売り上げを伸ばした。

オンラインショップを開店させ、企画展図録などは HP の企画展ページや YouTube チャンネルと連動させて、より内容が伝わりやすいように工夫したり、ちらしやニュースを同封したりして、遠方からの発注者のニーズにも応えた。

（2）自動販売機（1台）の設置

<各事業の推移>

（千円）

項 目	令和3年度	令和2年度	令和元年度
ミュージアムショップ売上	4, 6 4 6	1, 8 8 7	6, 6 9 7
自動販売機手数料収入	7 3	6 8	8 1

事業別評価

事業名称	実施概要	評価
資料収集保管事業	今年度は写真資料を中心に3000点を超える資料の寄贈があり、また戦後の映像資料の移管を受けて、映像資料のデジタル化を一層進めた。	A
調査研究事業	各調査研究を順調に進め、成果は企画展や紀要等で公表した。また財団他施設や外部研究者との連携研究も順調に進め、各施設の紀要で成果を公表した。	A
常設展事業	入館者数は前年度比の157%となったが、まだ今年度はコロナ禍にあって一昨年度の数値までは回復していない。引き続き、Twitter 等のオンラインツールを活用して施設の情報発信につとめた。	A
企画普及事業	2回の企画展示の観覧者数は、コロナ感染拡大による影響と空調設備故障による開催日数の減で、昨年度を下回る数字となったが、引き続き、オンライン解説動画の製作や SNS での資料紹介を実施した。学校連携では、昨年度と同様の感染防止対策を整えて、ユーラシア文化館・開港資料館と連携し、市内学校団体受入を実施した。	B
情報事業	定期的な HP コンテンツの更新のほか、Twitter と	A

	YouTubeによる情報発信をおこない、いずれも前年度からインプレッションと視聴回数を大きく伸ばした。	
施設維持事業	施設の老朽化が進み大幅な更新が必要な個所が出始めている。今年度は企画展直前での空調設備故障が発生したが、早急に修繕対応をおこない運営への影響を最低限にとどめるよう努力した。	A
収益事業	オンラインショップを立ち上げた。 次年度には販売することを目標に新商品の製作を検討した。 高額商品である、ループルの青いカバやニケ像は通常店頭には置いておらず、HPをご覧になった方が時々購入される程度であったが、ポップを作成したことで、青いカバを目的に入館される方も増えるなど、売上が大幅に増えた。	S

5 ユーラシア文化館事業

令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の流行という事態の継続を受けて、感染拡大防止に努めるとともに、コロナ禍での事業推進のための取り組みを行いました。

展覧会では、地元横浜中華街の各種団体と連携した「横浜中華街160年の軌跡—この街がふるさとだから」展と、東京大学大学院人文社会系研究科・同附属北海文化研究常呂実習施設・大阪府立近つ飛鳥博物館との共催による「オホーツク文化—あなたの知らない古代」展を開催し、図録を刊行しました。

常設展示では、企画展に合わせての一部展示替え、資料の初公開、季節にあわせたテーマ展示などを実施しました。

調査研究では、収蔵資料の基礎的研究や展覧会へ向けて、財団内外の関係者と連携しながら、調査研究を行いました。

普及啓発事業では、1階のフリースペース（ギャラリー、旧第一玄関）を活用し、各種パネル展、企画展に関連した写真展などの催しを実施しました。新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、5月末のY162、3月の開館祭等のイベントが中止となりましたが、11月には財団内外の組織と連携し、第2回横浜ユーラシア・スタチュー・ミュージアムを実施しました。

1 資料収集保管事業（定款第4条第1項第1号①）

ユーラシアの考古・美術・民族・歴史資料および文献等を分類・整理するとともに、良好な状態で保管するため、収蔵庫や展示室を常に適切な状態に保つよう環境検査を行いました。

（1）資料収集・保存

項 目	点 数	事 業 内 容
資料の寄贈・寄託	寄贈152点 寄託0点	主な収集資料：イランの陶器、福昌中国服装店関係資料、モンゴル等の調査記録写真、ほか
資料の購入	0点	
資料熟覧	1件	大学研究生による調査研究に対応した。
文献資料熟覧	0件	
資料の貸出	2件	歴史博物館主催企画展への文献資料、小学校への学習教材（民族衣装、馬頭琴など）の貸出しを行った。
収蔵資料の画像利用	6件	テレビ番組「世界に誇るニッポンの神業スペシャル」（BS日テレ）、「開運！なんでも鑑定団」（テレビ東京）などへ画像を提供した。

（２）文献資料の整理

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
和図書・洋図書	書誌データの入力、修正を行った。入力件数 2264 件
洋雑誌	書誌データの入力を行った。入力件数 1254 件
和雑誌	書誌データの入力、修正を行った。入力件数 500 件

（３）資料収集実績

区 分	購入	複製	寄贈	寄託	合計	累計
考古・美術・民族・歴史資料	0 (0)	0 (0)	152 (138)	0 (0)	152 (138)	9,204 (9,052)
図書	10 (8)	0 (0)	28 (32)	0 (0)	38 (40)	22,582 (22,544)
雑誌	0 (0)	0 (0)	57 (17)	0 (0)	57 (17)	8,408 (8,351)
電子資料	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	20 (20)
合 計	10 (8)	0 (0)	237 (187)	0 (0)	247 (195)	40,214 (39,967)
累計	932	2	39,098	182	40,214	

※（ ）内は、前年度点数。

（４）資料の保管

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
保存燻蒸処理	外部燻蒸庫を借用して酸化プロピレンを使用した殺虫殺菌燻蒸を実施した。
環境検査	虫菌による被害を未然に防ぎ、大気・塵埃・光線等の影響を最小限に抑えるため、年6回の環境検査を実施した。

（５）資料保管施設

保管施設	保 管 資 料
都市発展記念館・ユーラシア文化館 収蔵庫（200 m ² ）	考古・美術・民族・歴史・文献資料を収蔵。
外部倉庫（大黒ふ頭）	図書（江上文庫の重複本など）、販売用出版物などを収蔵

2 調査研究事業（定款第4条第1項第1号）

収集資料の整理、企画展や講演会の基礎的資料収集・調査研究を行い、十分な成果を上げてきています。なお、ユーラシア概念に関する歴史博物館や外部研究者との共同研究については、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から実施を見合わせました。

（1）基礎的調査研究

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
ユーラシアにおける陶器の研究（1／2年）	コロナ禍のため県外博物館が所蔵するウズベキスタン陶器の資料調査は実施できなかったが、複数の個人コレクターの収集品などを調査することができ、これが縁となり資料寄贈のお申し出を頂いた。また、日本とウズベキスタンの陶芸家たちの交流について関係者への聞き取り調査を行った。
ユーラシアの東西交流の研究（1／3年）	東西交流に関する文献の収集を行った。
ユーラシアにおける芸能の研究（1／3）	大道芸・サーカス研究の動向について、情報収集を行った。
ユーラシアにおける人形製品の研究（1／5）	人形土製品（土偶）に関する文献収集を行った。
ユーラシア概念をめぐる研究（5／5年）	歴史博物館と連携し、共同研究会を実施してきたが、今年度はコロナ禍のために実施することができなかった。（歴史博物館との連携事業）
横浜華僑・中華街に関する研究（3／3）	横浜華僑の口述記録調査や資料調査を行い、企画展「横浜中華街 160 年の軌跡」を通して広く一般に普及することができた。
令和4年度以降開催予定の企画展調査	令和4年度以降の企画展に関し、基礎的な調査や資料所蔵先との交渉などを行った。

（2）研究紀要の発行

『横浜ユーラシア文化館紀要』第10号（A4判、72頁、400部）を発行。

3 常設展事業（定款第4条第1項第1号②）

常設展示室において、企画展と連動した展示替えを行いました。また、展示資料に関連するクイズを配布するなど、集客とサービスの向上を図りました。

（1）常設展示室での実施事業

項 目	事 業 内 容
-----	---------

展示更新	・企画展やイベントに合わせて、入口ケース、「装う」、「伝える」の展示替えを行った。また、新年の干支に合わせてミニ展示「干支展 寅」を実施し、常設展示資料への理解を広めた。会期：1月8日～2月16日 ・なか区ブックフェスタに参加し、企画展「オホーツク文化展」に関連したミニ展示「ところ文庫」を実施した。会期：11月4日～12月26日 ・企画展やイベントにあわせて、ライブラリーに関連図書を配架した。
------	--

(2) 常設展示観覧者の推移(目標数 37,900 人)

	有料入館者(人)			無料入館者(人)	合計(人)	前年比	開館日数	1日平均入館者(人)
	大人	小中	計					
R 3 年度	774	559	1,333	14,305	15,638	164.4%	296 日	52.8
R 2 年度	273	105	378	9,134	9,512	29.0%	242 日	39.3
R 1 年度	729	376	1,105	31,688	32,793	79.0%	274 日	119.7

4 企画普及事業(定款第4条第1項第1号②)

市内学校団体受入につきましては、新型コロナウイルス感染拡大防止につとめながら、都市発展記念館及び開港資料館と一体となって実施しました。また、より多くの方に見ていただけるよう SNS の活用や YouTube での動画配信も行いました。

(1) 企画展の実施

企画展名/開催期間	観覧料	入館者数	目的・意図 及び 内容・成果
企画展 「横浜中華街・160 年の軌跡—この街がふるさとだから」 R3. 4. 10(土)～R3. 7. 4(日) 会期 86 日間(うち開館日数 74 日)	一般 300円 小中 150円	4,725 人 1 日あたり 約 64 人	横浜中華街の各種団体と連携し、幕末の誕生から現在までの横浜中華街の軌跡、職業、コロナ禍と闘う中華街のまちの姿を、歴史写真・資料・インタビュー記録などで紹介した。神奈川県下がまん延防止対策期間、東京都の緊急事態宣言が発令中であったが、実際の来場者に加えて、当館公式の Twitter や HP での YouTube による展示紹介動画の配信、各種マスコミを通じて、広く国内外に本企画展の内容を伝えることができた。横浜中華街の歴史と国際都市横浜における多文化共生への理解を深めることができた。
特別展 「オホーツク文化—あなたの知らない古代」 R3. 10. 16(土)～12. 27(日) 会期 73 日間(うち開館日	一般 500円 小中 250円	6,823 人 1 日あたり 約 110 人	古代の北海道に発達した独特の文化であるオホーツク文化を取り上げた。東京大学常呂実習施設・大阪府立近つ飛鳥博物館と共催し、横浜と大阪に巡回した。道北～道東の全域から 600 点以上の資料を集めた、およそ 20 年振りとなる本格的なオホーツク文化の展示であった。入場者数はコロナ禍以降の展示としては好

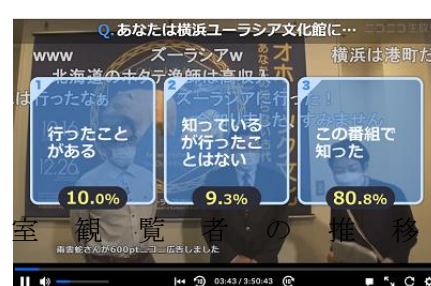
数 62 日)			成績であり、図録の売り上げ（会場・オンライン販売分）は目標を大幅に超える 783 冊を記録した。Twitter などの SNS の活用、ニコニコ美術館への出演などネット媒体による広報活動も積極的に行った。
企画展基礎調査			来年度開催予定企画展の基礎調査を行った。



企画展「中華街 160 年の軌跡」
展示会場風景



特別展「オホーツク文化」
展示会場風景



特別展「オホーツク文化」
ニコニコ美術館配信

	有料入館者	無料入館者	合計	前年比	開館日数	1 日平均入館者
R 3 年度	6,991	4,557	11,548	243.5%	136	85
R 2 年度	2,628	2,114	4,742	21.5%	100	47
R 1 年度	6,722	15,301	22,023	152.2%	134	164

(3) 講座・講演会

項 目	参加者数	内 容
月イチ講座の開催		新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止。

(4) 普及啓発

項 目	参加者数	事 業 内 容
「なか区ブックフェスタ」への参加 R3. 11. 4～12. 26	11,866 人	常設展示室の一部でミニ展示「ところ文庫：遺跡とホタテとカーリングの町から」を実施し、なか区ブックフェスタに参加した。企画展「オホーツク文化」の関連企画として、オホーツク海に面する旧常呂町の自然や歴史など地域の様々なテーマを扱った北海道北見市の地域出版物を紹介した。
開館祭 R4. 3. 12(土)・13(日) 中止	244人	コロナ感染拡大防止のため開館祭は中止とし、代わりに開館記念日として都ユ両館で無料開館。

第2回横浜ユーラシア・ スタチュー・ミュージアム R3. 11. 20(土)・21(日)	227人 ※一斉展示観 覧者(中庭)	横浜ユーラシア文化館・都市発展記念館、横浜開港資料館、日本大通りに加えて、横浜中華街の合計9会場にポイントを設け、オリジナル・スタチュー「赤い靴の女の子」、「兵馬俑」を含む19体のスタチューを設置した。また全館無料開館とするとともに、開催にあたってクラウドファンディングで資金を一般から募った。
--	--------------------------	---

(5) 学校連携事業

項 目	事 業 内 容
市内学校団体見学の受入	・国語学習(「スーホの白い馬」)の充実を図るために、市内外の小学校にモンゴル体験キット(モンゴル民族衣装、馬頭琴)の貸出を行った。 ・新型コロナウイルス感染拡大防止に留意し、開港資料館の講堂も利用して、小学校4年生のカリキュラムで学習する吉田新田にあわせて、「吉田新田の開発とその後」(関外地区の発展)をテーマに、都市発展記念館と連携し、職員による解説と体験メニューを実施した。 28校 2,093人(前年度小学校4年生19校 1,333人)
教員向け研修の実施 中止	財団エデュケーターと連携し、吉田新田の学習をはじめとする教員向け研修を実施した。
学芸員実習の受け入れ	コロナ新型感染症拡大防止のため、実習期間を6日とし、合計4名の学生を受け入れた。学芸員の仕事について総合的な理解を深めると同時に、当館イベントスタッフとして活躍した。

(6) 市民協働事業

項 目	事 業 内 容
市民ボランティアによるワークショップの実施 中止	コロナ新型感染症拡大防止のため、実施を中止した。

(7) 広報



第2回横浜ユーラシア・スタチュー・ミュージアム

左：日本大通りでの赤い靴女の子 中：中華街での兵馬俑 右：当館中庭でのフィナーレ

項 目	事 業 内 容
印刷物作成	・コロナ新型感染症拡大のため、行事予定を策定が困難なため、催し物案内の作成を中止した。 ・企画展ポスター・チラシ ・館報『横浜ユーラシア文化館ニュース<i>News From EurAsia</i>』第36（8000部）・37号（7,000部）
優待カードの発行	年間パス「E Aハマ発カード」の販売を継続した。 年会費 1,500円
その他広報	・横浜市を通じての記者発表。 ・市内学校・公共施設へのチラシ配布。 ・日本大通り駅改札外へのポスター掲出。 ・ホームページ・ブログによるインターネットでの情報配信。 ・テレビ・ラジオ・ケーブルテレビ・インターネット等放送媒体への情報提供、取材受入。 ・新聞各社・雑誌・タウン情報誌・旅行情報誌・その他広報誌等への情報提供、取材受入。 ・市内観光案内所へのチラシ訪問配布。 ・市外都市旅行代理店への施設説明。 ・フィルムコミッションへの協力による撮影場所としてのPR。 ・近隣へのダイレクトメール発送。

5 情報事業（定款第4条第1項第1号②）

インターネット等を利用して、調査研究・展示・出版・講演会・ミュージアムショップなどに関する情報を提供するために、データの更新等を行い、情報の発信に関わる機器類の保守管理を行いました。

項 目	事 業 内 容
簡易検索端末・文献検索端末	資料：常設展示室における主な展示資料を検索できる端末の設置を継続した。
	文献：館蔵文献のOPAC公開を継続・拡充した。
メールニュースの配信	希望者に対するメールニュースの配信を行った。
インターネットによる情報公開	財団開設のホームページ上で、財団各施設案内をはじめ、展示・催し物・刊行物・休館や再開館についての広報や、収蔵資料・図書文献資料等の紹介を行った。 アクセス件数 合計 158,719 件（前年度の 81 %）
SNSによる情報発信	公式 Twitter と公式 YouTube チャンネルに加え、公式 Facebook ページを開設した。Twitter はツイート数合計 833、フォロワー1,869、インプレッション合計 1,992,934（前年比 148%）。YouTube は、動画 49 本、視聴回数 4,203 回、総再生時間 129 時間、チャンネル登録

	者 193 人。Facebook については、管理やカウントの方法を検討中である。
--	---

6 ユーラシア文化館施設維持事業（定款第4条第1項第1号③）

ユーラシア文化館の維持管理及び運営を行いました。

管理対象施設	事業内容・所在地など
ユーラシア文化館	施設の維持管理 ・収蔵庫空調機修理 ・1～4階エレベータホール系統空調機修理 ・除湿機による展示室内湿度管理 ・排煙機用原動機始動用蓄電池交換 ・ITV 設備修繕 ・業務用エレベータピット底部排水工事 ・3階企画展示室空調機ガス漏れ検査・修理 ・消防設備点検・防火対象物点検・防災管理点検 ・インターホン交換工事 ・エレベータ、自動ドアの定期点検 ・館内清掃、コロナ対策ウイルス除去作業

7 都市発展記念館・ユーラシア文化館収益事業（定款第4条第1項第2号）

（1）ミュージアムショップの経営

感染対策として、店頭の図録や鳥瞰図は見本だけをならべ、そのほかの商品も OPP 袋に入れられるものだけを販売していたが、店頭の商品を徐々に増やし、年度内にほぼすべての商品が並んだ。まだ出せていない高額の商品は、外のラックとエレベータ内にポップを貼り、希望される方に商品をご覧いただくスタイルにし、売り上げを伸ばした。

オンラインショップを開店させ、企画展図録などは HP の企画展ページや YouTube チャンネルと連動させて、より内容が伝わりやすいように工夫したり、ちらしやニュースを同封したりして、遠方からの発注者のニーズにも応えた。

（2）自動販売機（1台）の設置

<各事業の推移：再掲>

（千円）

項 目	令和3年度	令和2年度	令和元年度
ミュージアムショップ売上	4, 6 4 6	1, 8 8 7	6, 6 9 7
自動販売機手数料収入	7 3	6 8	8 1

事業別評価

事業名称	実施概要	評価
資料収集保管事業	資料収集及び整理は着実に進捗した。資料の熟覧や他館への貸出など、外部利用者へのサービスも適宜対応した。	A
調査研究事業	計画していた調査研究については、概ね予定どおり進捗することができた。	A
常設展事業	常設展については、干支クイズなどの時宜にかなった企画の実施、企画展に合わせ展示内容を連動させるなど集客を図った。	A
企画普及事業	財団内外と連携して、ユーラシア地域の人の移動と文化変容に関する2回の企画展を開催し、コロナ禍にも関わらず好評を得た。また今年度は第2回横浜ユーラシア・スタチュー・ミュージアムを実施し、大変好評を得た。また、都市発展記念館と一体となって、制約がありながらも、市内学校団体受入を実施した。学校連携では、モンゴル関係キットの貸し出しを行った。	S
情報事業	定期的なメールニュースの発行、HPを利用した情報発信に加えて、新聞等のマスコミを活用し、広報強化に努めた。また、Twitter や Youtube などインターネットを通じての情報発信も積極的に行った。	A
施設維持事業	施設の老朽化が進み大幅な更新が必要な個所が出始めているが、日々の運営を滞らせることなく円滑な運営に努めた。	A
収益事業	2回の企画展では有料入館者が多く、また図録など関連出版物の売り上げが好調に伸びた。 感染対策として、店頭の図録や鳥瞰図は見本だけをならべ、そのほかの商品も OPP 袋に入れられるものだけを販売していたが、店頭の商品を徐々に増やし、年度内にほぼすべての商品が並んだ。まだ出せていない高額の商品は、外のラックとエレベーター内にポップを貼り、希望される方に商品をご覧いただくスタイルにし、売り上げを伸ばした。 オンラインショップを開店させ、企画展図録などはHPの企画展ページや YouTube チャンネルと連動させて、より内容が伝わりやすいように工夫したり、ちらしやニュースを同封したりして、遠方からの発	S

	注者のニーズにも応えた。	
--	--------------	--

6 三殿台考古館事業

依然として新型コロナウイルス感染症の影響が続いているなか、三殿台考古館でも館内の十分な換気・入館人数の制限など感染防止に注力しました。また感染症だけでなく熱中症への対応も考慮し、基本的に盛夏の7・8月はイベントの開催を避け、GWや秋季に体験学習を実施したほか、「ダイヤモンド富士」や「夜景」の鑑賞会・講師による解説付きの「部分月食を見る会」を開催しました。野外施設という当館がもつ特徴も幸いして、長期休館となった昨年度に比べて多くの方が来館し、その数は過去5年間で最多の15,780人となりました。

令和3年度の三殿台考古館は、前年度に引き続き次の事業を更に充実・発展させるとともに、安全・安心を確保するため、感染症および熱中症予防について重点的に取り組んできました。

1. 資料収集保管事業・調査研究事業

- ①調査後収蔵されたままの出土品における整理作業及び展示遺物の補修を行いました。
- ②記録資料の保存及び活用を図るため、劣化した写真や測量図面のデジタル化を実施しました。
- ③整理ボランティアとの協働によって、収蔵されている出土品の再整理作業を行いました。

2. 常設展事業

- ①小学校社会科見学では、児童の興味と関心を導き出すため、見学と体験を組み合わせたプログラムを構築しました。
- ②磯子区役所との連携により、熱中症対策の一環としてミスト扇風機を借り入れ設置しました。

3. 企画普及事業

- ①各種イベントの案内をHP・公共広報紙のほか、Twitterにて積極的に市民へ発信しました。
- ②ガイドボランティアを新たに募集し、土・日曜日の常設展示・遺跡ガイドを充実させました。
- ③体験教室の屋外実施や野外イベントを増やすことで、当館の魅力をアピールするとともに感染防止に努めました。

4. 施設維持事業

- ①出勤スタッフによる施設内の清掃、草刈り、樹木剪定、安全点検を毎日行いました。
- ②史跡内での夜間の防犯・防災の観点から、人感センサーライトを屋外に設置しました。
- ③雨樋・U字溝の清掃や保護棟屋根の修繕など、施設の維持管理に努めました。

1 資料収集保管事業・調査研究事業（定款第4条第1項第1号①）

保管資料について整理・分類・デジタルデータ化等を行い、資料の保全を図りました。

（1）保管資料再整備事業

項 目	事 業 内 容
出土品保管再整備事業	作業には整理ボランティアの協力を得ながら、洗浄や実測等、また、発掘時の原図を見直し、遺跡全体図の再作成作業を行った。
記録資料のデジタルデータ化	保管している測量図面・写真類のデジタルデータ化を継続した。遺構

事業	が不特定な写真についての特定作業を進めた。
図書資料の受入れと整理	寄贈された図書を整理分類した。

(2) 調査研究事業

項 目	事 業 内 容
三殿台遺跡の再評価	市民ボランティア育成事業と関連した、出土品の整理作業（分類・接合・復元・実測）を行った。
三殿台考古館収蔵資料の活用	三殿台遺跡発掘調査の映像資料（DVD）を小学校社会科見学の事前学習用に貸し出した。また、小学6年生の社会科見学の際、土器片や石器等の収蔵物を手にとって観察できるようにし、小学生の歴史教育の支援に活用した。

2 常設展事業（定款第4条第1項第1号②） 令和3年度来館者数 15,780人

遺跡・常設展示室・竪穴住居跡保護棟・復元住居・北側貝塚の維持管理を行うとともに、団体及び一般来館者見学時に、遺跡や展示品についての解説を丁寧に行いました。

(1) 常設展示の維持管理と展示内容の充実

項 目	事 業 内 容
遺跡案内・展示解説の実施	団体及び一般来館者見学時に、遺跡・住居跡保護棟・復元住居・展示室・北側貝塚について、職員が1,984人に遺跡案内・展示解説を行った。

(2) 住居跡保護棟の適切な保全

項 目	事 業 内 容
住居跡保護棟のメンテナンス等	竪穴住居跡保護棟のメンテナンスを業者に委託した。（隔月実施）

3 企画普及事業（定款第4条第1項第1号②）

コロナ禍の影響で限られたイベントの開催となりましたが、市民や来館者に遺跡への理解を深めてもらえるよう生涯学習を支援しました。

(1) 企画普及事業

項 目	参加人数	事 業 内 容
「いそっぴゴールデンウィーク2021」スタンプラリーへの参加	169人	4月24日から5月5日の期間で磯子区主催の「いそっぴゴールデンウィーク2021」スタンプラリーに参加した。
「子どもアドベンチャー2021」		コロナ禍の影響により中止となった。
三殿台遺跡整理ボランティア	482人	三殿台遺跡の再評価を目標にして活動している。弥生時代中期の遺構を中心に、土器片の分類・接合・復元・実測及び石器の実測作業を行った。 記録資料整理に際しては、写真資料整理・デジタル化作

		業を行った。
三殿台遺跡ガイドボランティア	69 人	5 人のボランティアが土曜日を中心に、来館者へ遺跡解説を行った。延べ 69 人が活動し 1,158 人をガイドした。
ダイヤモンド富士観賞会	(秋) 50 人 (春) 84 人	9/28～30・3/13～15 春秋の「ダイヤモンド富士」の期間に閉館時間を延長して鑑賞会を実施した。
部分月食を見る会	33 人	11/19 部分月食を講師の解説付きで観賞した。
冬の夜景観賞会	34 人	12/17～19
学校見学の受け入れ	2,191 人	年間を通じて小学校 6 年生の受け入れなどを行っており 32 校 2,191 人が来館した。引率教諭との事前打合せを経て、三殿台遺跡の解説及び 4 種類の体験プログラムを 2 時間の授業に組み入れた。
小学校クラブ活動 及び 総合的な学習等への支援	各回 16 人 (全 4 回) 各回 68 人 (全 3 回)	岡村小学校の地域交流クラブに講師 2 名を派遣した。勾玉作り・弓矢づくりの指導を行った。 岡村小学校 6 年生の土器作り指導に、講師 2 名を派遣した。
ホームページ等の運営		ホームページ及びツイッターで催事等を広報した。 年間催事案内を常時掲載し、体験教室等のイベント情報を発信した。三殿台考古館の E メールアドレスをアップし、イベントの申し込みに対応させた。
その他広報		広報よこはま磯子区版に体験教室等の情報を提供した。 タウンニュースに「60 年前の三殿台発掘」シリーズを連載 (月 1 回) プラネット神奈川及び横浜カレンダーに体験教室等の情報を提供した。 JR 根岸線 (横浜～大船間) の駅構内で三殿台ポスター掲示 (駅から行ってみたい景色シリーズ)

(2) 体験学習事業

項 目	参加人数	事 業 内 容
体験学習の実施	①15 人 ②10 人 ③11 人 21 人 15 人 7 人 — 11 人	・ゴールデンウィーク体験教室 ①5/2 (日) 古代人体験教室 ②5/3 (祝) 勾玉作り体験教室 ③5/4 (祝) 石器作り体験教室 ・春の弓矢うち大会 (5/15) ・開港記念日イベント「火起こし体験」(6/2) ・秋の勾玉作り体験教室 (9/11) ・秋の弓矢うち大会 (9/18 雨天中止) ・秋の土器作り体験教室 (10/9)

	12 人	・秋の土偶作り体験教室（10/10）
	10 人	・秋の土器作り教室（10/16・17）
	9 人	・秋の石器作り体験教室（10/23）
	32 人	・秋の野焼き（11/6）
	30 人	・冬の弓矢うち大会（12/4）

（３）その他利用促進事業

項 目	参加人数	事業内容
弓矢うち体験	4,055 人	手作り弓矢の敷地内貸し出し（無料）

（４）グッズ製作・販売事業

項 目	事業内容
缶バッジの製作・販売	売上げ 86 個×@100 8,600 円
土器片ペンダントの製作・販売	売上げ 74 個×@500 37,000 円
ミニチュア土器の製作・販売	売上げ 3 個×@800 2,400 円
オリジナルクリアファイルの販売	売上げ 28 枚×@200 5,600 円
勾玉づくりキットの製作・販売 （青田石・滑石）	売上げ 185 個×@400 74,000 円（青田石）
	売上げ 295 個×@300 88,500 円（滑石）

４ 三殿台考古館施設維持事業（定款第４条第１項第１号③）

三殿台考古館の諸施設を日々管理し、適切に維持するとともに来館者に満足感を与えるよう運営しました。

（１）三殿台考古館の管理

管理対象施設等	事業内容
経常的な維持・管理	・国指定史跡「三殿台遺跡」・管理事務棟・展示棟・竪穴住居保護棟・復元住居・遺構表示用擬木の維持管理を実施した。 ・遺跡内草刈り、植栽剪定 ・職員による遺跡内及び周辺の清掃作業や、施設内巡回などの危機管理対策を実施した。 ・夜間の防犯のため、屋外ライトを設置した。

（２）三殿台考古館施設自動販売機売り上げの推移

項 目	令和３年度	令和２年度	令和１年度	平成３０年度
自動販売機売り上げ（千円）	２７	２４	２３	２７

（３）三殿台考古館施設入場者の推移

項 目	令和３年度	令和２年度	令和１年度	平成３０年度
-----	-------	-------	-------	--------

三殿台考古館施設入場者（人）	15,780	11,597	13,427	14,960
----------------	--------	--------	--------	--------



小学校 社会科見学



勾玉作り体験教室



火起こし体験

事業別評価

事業名称	実施概要	評価
資料収集保管事業	三殿台遺跡出土品の洗浄・注記・接合などの基礎整理や実測・拓本取り、収蔵記録資料のデジタルデータ化などを整理ボランティアの協力を得て継続した。	B
常設展事業	職員による学校団体・一般団体・その他来館者へ遺跡・住居跡保護棟・復元住居・北側貝塚について展示解説を実施した。 コロナ禍の影響が残るものの、小学校の社会科見学は32校 2,100人を超えた。野外施設という当館の特徴を理解した市民の利用を促し、入館者数は過去5年間で最多、前年度比で36%増となった。	S
企画普及事業	コロナ禍によるイベントが中止になるなか、屋外で行う無料の弓矢うちは人気が高く約4,000人が体験した。 ガイドボランティアは延べ70人の協力により1,100人余の来館者に解説を行った。	S
施設維持事業	職員による毎日の環境整備を実施した。 老朽化が進む旧事務棟・展示棟・住居跡保護棟・擬木標示遺構の維持管理を適切に行った。 夜間の防犯のため、人感センサー式のライトを屋外2か所に設置した。	A